

科目名	聖和総合教育				担当者	セン 専 任 教 員 ニ ン キョウ イ ン						
区 分	必修	2	単位	授業回数	30	回	授業 形態	演習	学年	1年	開講期	通年
				授業時間数	60	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	担当教員のオフィスアワーまたは、メールアドレスを通じて連絡する。第1回目の授業以前に、メールアドレスについては告知がある。											
専門的 学習成果	①	コミュニケーション力の特性について学び、自身の能力を高めていくことができる。										
	②	建学の精神と地域の特性を理解し、それを踏まえた社会貢献ができる主体性・自主性を伸ばすための努力ができる。										
	③	自身の特徴を理解し、二次・卒業後の方向性について検討し、進路選択を明確にするための道筋を明らかにすることができる。										
汎用的 学習成果	(1)	コミュニケーション力の特性について学び、自身の能力を高めていくこと、社会的・職業的自立に必要な知見および態度を獲得し、職業人としての自立に活かすことができる。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(2)	自身の特徴を理解し、二次・卒業後の方向性について検討し、進路選択を明確にするための道筋を明らかにする過程で、論理的思考を高め、自己理解を深め、社会人・職業人として協働することができる。(専門的学習成果②③に関連)										
	(3)	建学の精神と地域の特性を理解し、それを踏まえた社会貢献ができる主体性・自主性を伸ばす過程を通じて、地域の発展に寄与する意義を再認識し、より積極的な貢献者となる。(専門的学習成果②③に関連)										
授業概要	<p>本学の理念である仏教精神に学びながら、自己と他者とともに慈しみ尊重する和の心をもって社会に貢献する生きる力について考え、体験する機会が与えられる。また、社会人としての基本であり、人間が生きる上で最も重要なコミュニケーション能力について、鍛錬し高めていく。更に社会生活をする上での挨拶、慣習、儀礼などについても、最低限の素養を身に着け、教養を深める。ゼミ活動および他ゼミ学生との交流を通じて、協働していく力を養う。各種活動を通じて、進路選択に向けた自立性の確立を目指す。</p>											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		小テスト	20	2回実施し、各回50%を配点する。								
		平常点	80	各種活動における意欲、態度、姿勢が評価される。								
汎用的 学習成果	(1) は、専門的学習成果①②③で評価を行う。 (2) は、専門的学習成果②③で評価を行う。 (3) は、専門的学習成果②③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名						出版社名				
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名						出版社名				
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	<p>①学生生活について重要な情報についての連絡を頻繁に行うため、常に、最新の正しい情報を入手するように配慮する。配布した資料については、熟読し、適格な理解をするように心がける。予習復習それぞれ週1時間程度必要になる。 ②レポートは添削し返却する。平常点にかかる観点については、随時コメントを行う。</p>											

授業計画			学習成果の評価	授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	オリエンテーション／履修登録／役割分担の確認	履修理解と登録の妥当性	授業内容	履修確認／各種資格の案内と取得に向けた計画策定	適切な履修計画への意欲 資格取得への積極性	
	学習成果	授業の目的を適切に理解する。キャリアに必要な履修計画ができる。ゼミにおける自分の役割を意識し、積極的に取り組む。		学習成果	履修計画を見直し、適切な選択を行う。合理的・計画的な資格取得に向けて計画を立てることができる。		
	予習復習の内容	学生生活ガイドブック、シラバスを熟読する。		予習復習の内容	キャリアプランと学習プラン、資格取得プランの整合性を検討する。		
2回	授業内容	社会人マナー1.感謝の手紙	授業への積極性	授業内容	学外研修研修行程案内／聖翔祭の詳細説明	聖翔祭へのリーダーシップ、チームワーク	
	学習成果	手紙の形式的書き方を理解する。内容を考案し、適切な文章を作成し、気持ちのこもったコミュニケーションを確立させる。		学習成果	学外研修の具体的なプランを理解し、自ら課題を立て取り組むための準備を加速させる。聖翔祭における自分たちのプランについて明確化する。		
	予習復習の内容	様々な手紙の書き方について調査し、見識を広める。		予習復習の内容	学外研修について関心事項の調査を深める。聖翔祭のアイデアを収集する。		
3回	授業内容	社会人マナー1.建学の精神・仏教行事の案内	建学の精神の理解 仏教行事への理解	授業内容	聖翔祭準備。実行計画策定。	リーダーシップ、チームワーク	
	学習成果	建学の精神について理解を深め、仏教行事の意義について知る。		学習成果	聖翔祭の展示・出店に向けた手続きを明確化し、計画を策定する。		
	予習復習の内容	建学の精神について改めて深く考え、どのように自分の学習・生活に活かすかを考える。		予習復習の内容	プロジェクトの適切な進め方の事例について調査し、一般化レベルと、ゼミ活動レベルへの適応について検討する。		
4回	授業内容	社会人マナー3.挨拶・言葉遣いの確認	授業への積極性	授業内容	聖翔祭準備。各種手配完了。	洞察力、内省力	
	学習成果	正しく美しい、口語表現について理解し、実践するための計画を策定する。		学習成果	聖翔祭の展示・出店に向けた各種手配を完了させる。		
	予習復習の内容	参考となる人物を探し、発見し、まねる習慣を身に付ける。		予習復習の内容	活動において、体系的・網羅的に準備が整っているか、検討する。		
5回	授業内容	社会人マナー4.図書館利用方法	意欲的な態度	授業内容	聖翔祭準備。最終調整。	授業への積極性	
	学習成果	図書館の全般的システムを理解し、文献調査の適切な手続きについて演習する。		学習成果	聖翔祭の展示・出店に向け、細部をチェックし、万全の体制になるように機能させる。		
	予習復習の内容	各種授業を参考に、意識的に図書館を利用し、文献調査する習慣を養う。		予習復習の内容	本番に備え、天候、気温、他各種イベント状況などをチェックし、乗客の予測を立てる。		
6回	授業内容	社会人マナー5.行動様式	授業への積極性	授業内容	聖翔祭活動振り返り。	洞察力、内省力	
	学習成果	機能的で美しい、行動様式について学び、練習し、身に付けるための計画を策定する。		学習成果	聖翔祭の活動を振り返り、計画性、実行性、成果を検証し、今後の活動に活かすための知見を得る。		
	予習復習の内容	参考となる人物を探し、発見し、まねる習慣を身に付ける。		予習復習の内容	活動の流れを記録としてまとめ、検証し、今後の就職活動における資料のひとつとしてファイリングする。		
7回	授業内容	学外研修の案内	学外研修への意欲	授業内容	健康保険制度の仕組み	授業への積極性	
	学習成果	学外研修の行程について案内がある。自らのキャリアと志向に合わせて、課題について自己研究を行う。		学習成果	健康保険制度の仕組みと自らの義務についての適切な理解を得る。		
	予習復習の内容	学外研修のロケーションについて調査する。		予習復習の内容	日本の健康保険制度、世界各地の制度を調査・比較し、正当性・妥当性について検討する。		
8回	授業内容	社会人マナー6.身体活動・協働活動の有効性	協働性	授業内容	建学の精神再確認	授業への取り組みの真摯さ	
	学習成果	身体活動と、協働活動の意義、有効性について学ぶ。		学習成果	建学の精神について再確認し、自身のこれまでの行動を振り返り、必要に応じて、今後の在り方について調整する。		
	予習復習の内容	自らの身体能力について把握し、必要に応じて、体を動かす習慣を身に付ける。		予習復習の内容	短大（本学）設立の過程について調査し、時代の変遷について理解し、将来の展望について想像し、構想を練る。		
9回	授業内容	社会人マナー7.命の大切さ	授業への意欲的な態度	授業内容	基礎学力確認	学力向上への積極性	
	学習成果	自他の存在意義、命の意味について洞察し、自らの理解を深める。		学習成果	自身の基礎学力について、強み・弱みを認識し、今後、発展させるための計画を策定する。		
	予習復習の内容	命が大切に扱われていない事例などを調査研究し、大切にされるための道筋について考察する。		予習復習の内容	今後1年間の学習プランを立てる。		
10回	授業内容	身体を活用したレクリエーション	活動への意欲 協働力	授業内容	自己分析	真剣さ	
	学習成果	身体を活用したレクリエーションに取り組む。高い目標を設定する意義への理解を深め、チームワーク力を磨く。		学習成果	自分自身の傾向・志向を洞察し、自らの特徴について客観的立場から把握することができるようになる。		
	予習復習の内容	自らの身体状態を把握し、適切な活動量を把握する。		予習復習の内容	偉人、賢人について調査し、自らの志向の実現化に向けた、実行計画を策定する。		
11回	授業内容	スポーツ大会	活動への意欲 協働力	授業内容	履歴書作成練習	真剣さ	
	学習成果	自らの長所と短所を認識し、役割意識をもち取り組み、成果にこだわり真摯に取り組むことの意義を知る。		学習成果	履歴書の形式的な記述と、自らを適切に伝える叙述力を鍛えるための練習を行い、今後の就職活動で活かしていくための素材を得る。		
	予習復習の内容	自らの身体状態を把握し、今後の健康的コンディション作りのための指針を練る。		予習復習の内容	うまく記述できない部分について、教職員・専門家等に相談する。		
12回	授業内容	社会人マナー8.防犯意識・防犯対策	授業への意欲的な態度	授業内容	進路選択にかかる検討	自己開示	
	学習成果	地域の犯罪実態や、最新の犯罪傾向について知り、防犯意識を高め、具体的な対策をとることができるようになる。		学習成果	自らの進路について検討し、計画を策定する。		
	予習復習の内容	住居周辺および住所周りのチェックを行う。不審な人間など地域の情報に敏感になる習慣をつける。		予習復習の内容	想定されるキャリアについて調査の範囲を拡大し、視野を広げる。		
13回	授業内容	社会人マナー9.電話の使い方・礼儀作法	授業への積極性	授業内容	進路選択にかかる相談	自己開示・傾聴力	
	学習成果	機器を活用した場合と、対面で行う際のコミュニケーションについて、社会人として最低限の知見を得る。		学習成果	自らの進路について策定した計画を基に、担当教員からのフィードバックを得て、より良い計画づくりの参考とする。		
	予習復習の内容	授業の学習内容について、一般的な内容の情報収集を行い、練習を行う。		予習復習の内容	自らの計画について、教職員・専門家に相談し、他者の見解・知見を得る機会を設ける。		
14回	授業内容	聖翔祭概要案内	協働活動への意欲	授業内容	2学年次におけるベーシックゼミの説明	授業への能動的取組	
	学習成果	聖翔祭の意義について案内を受け、自らの活動についての構想を練ることができる。		学習成果	2学年次におけるベーシックゼミについて説明を受け、自らのキャリアや志向を考慮し、選択について考えることができる。		
	予習復習の内容	過去の事例をチェックしたり、近年の学園祭のトレンドについて調査し、自身の関心を高める。		予習復習の内容	自身の志向について再確認する。2年次学生からの情報を収集する。		
15回	授業内容	前期の総括／夏季休暇期間の諸注意	授業への取り組みの真摯さ	授業内容	1年間の総括／春季期間の過ごし方	積極性、計画力、真摯さ	
	学習成果	前期の活動を振り返り、自身の思考・行動傾向についての理解を深める。夏季休暇中の計画を作成し、キャリアプランに活かす。		学習成果	1年間の活動・行動を振り返り、自身の傾向・志向・特徴を明らかにし、今後の成長に役立つ指針を立てる。		
	予習復習の内容	短大一年生が、有効に夏季休暇を過ごすための事例を調査し、自身の参考とする。		予習復習の内容	これまでの活動の仔細を一覧化し、そのつながりについて精査し、これからの展望に役立つ特徴について深く洞察する。		

科目名	人間と仏教				担当者	カマ 鎌 田 文 恵 ・ カマ 鎌 田 清 寛						
区分	必修	2	単位	授業回数	15	回	授業 形態	講義	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業中または hushiki@gmail.com にて行う。											
専門的 学習成果	①	仏教を身近にあるものとして理解を深め、活用できる。										
	②	仏教における諸行事、特に降誕会・成道会・涅槃会について理解し概要を説明できる。										
	③	仏教の基本的な教えについて理解し概要を説明できる。										
	④	日本における仏教の代表的な十三宗派について全体的に理解し、概要を説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	本学の建学の精神である仏教の精神を理解し、日々の生活に活かすことができる。(専門的学習成果①②③④に関連)										
	(2)	坐禅などを通して自己を整えていくことができる。(専門的学習成果①に関連)										
授業概要	<p>仏教の精神を基とする本学の建学の精神、即ち自他を大切に慈しむ「慈悲」の心、支えあい協力し合う「和」の心、「智慧」を学ぶ人間教育という精神に基づいて、仏教を我々の身近なものとして学んでいく。勤行や坐禅といった体験を通し心身を整え自己を見つめると共に、仏教の基本的な教え、お釈迦様の生涯、日本に伝来して以後の仏教各宗派について学び、今後の学生生活や社会人生活、或いは人生において道標として活かせるようにする。</p>											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	40	講義9～15回目の内容について実施し、40%を配点する。								
		レポート										
		小テスト	40	講義1～7回目の内容について実施し、40%を配点する。								
		平常点	20	受講態度の他、坐禅、読経、仏教聖歌への取り組みにより評価する。								
汎用的 学習成果	(1)は専門的学習成果①～④で評価を行う。 (2)は専門的学習成果①で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名					出版社名				
			『礼讃抄／修嵐林』									
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名					出版社名				
			『仏教聖典』									
	大角修監修		『イラストでわかるやさしい仏教』					成美堂出版				
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		<p>①「般若心経」「延命十句観音経」の読経、及び仏教聖歌「三帰依文」「四弘誓願」の唱和を行うので、事前にテキスト「修嵐林」「礼讃抄」によく目を通し、最終的にテキストを見なくとも唱えられる・歌えるようになることが望ましい。(計60時間) また、毎回坐禅を行うので坐を組みやすい服装で出席すること。厳粛な気持ちで臨み、私語は慎んで受講すること。 ②坐禅は適時指導し坐相や取り組みを評価対象とする。お経や小テスト及び定期試験については講義内容をまとめたレジュメを配布することでフィードバックとする。</p>										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	勤行、坐禅、講義「積尊の生涯、降誕」	8回目の授業中に60分ほど時間を取り小テストを実施する。テスト範囲は第1～7回目の講義内容、並びに仏教聖歌とする。
	学習成果	坐禅や読経の仕方について理解する。降誕会について理解し概要を説明できる。	
	予習復習の内容	「修嵐林」「礼讃抄」及び「仏教聖典」の2頁目～第一章「史上の仏」をよく読んでおく。	
2回	授業内容	勤行、坐禅、講義「積尊の生涯、出家そして成道へ」	
	学習成果	成道会、初転法輪について理解し概要を説明できる。	
	予習復習の内容	「仏教聖典」の2頁目～第一章「史上の仏」をよく読んでおく。	
3回	授業内容	勤行、坐禅、講義「積尊の生涯、布教伝道の旅と涅槃」	
	学習成果	涅槃会について理解し概要を説明できる。	
	予習復習の内容	「仏教聖典」の2頁目～第一章「史上の仏」をよく読んでおく。	
4回	授業内容	勤行、坐禅、講義「仏教の基本的な教え、三法印、四法印」	
	学習成果	三法印、四法印について理解し概要を説明できる。	
	予習復習の内容	「仏教聖典」の51頁目～第二章「人と心のありのままの姿」をよく読んでおく。	
5回	授業内容	勤行、坐禅、講義「仏教の基本的な教え、縁起」	
	学習成果	因縁生起や十二因縁について理解し概要を説明できる。	
	予習復習の内容	「仏教聖典」の42頁目～第一章「因縁」をよく読んでおく。	
6回	授業内容	勤行、坐禅、講義「仏教の基本的な教え、四諦八正道、中道」	
	学習成果	四諦八正道、中道について理解し概要を説明できる。	
	予習復習の内容	「仏教聖典」の42頁目～第一章「因縁」をよく読んでおく。	
7回	授業内容	勤行、坐禅、講義「仏教の基本的な教え、三学、六波羅蜜」	
	学習成果	六波羅蜜について理解し概要を説明できる。	
	予習復習の内容	「仏教聖典」の163頁目～第二章「実践の道」をよく読んでおく。	
8回	授業内容	勤行、坐禅、小テスト	
	学習成果	積尊の生涯並びに仏教の基本的な教えについて理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	「仏教聖典」や1～7回目の講義で配布したプリントなどを整理し復習しておく。	
9回	授業内容	勤行、坐禅、講義「日本における仏教、仏教の伝来と広がり」	定期試験時に筆記試験を実施する。試験範囲は第9回目～15回目の講義内容、並びに仏教聖歌、お経などとする。
	学習成果	日本への仏教伝来と広がり概要を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	自分の家のお墓があるお寺や身近にあるお寺の宗派などを調べておく。	
10回	授業内容	勤行、坐禅、講義「日本における仏教、奈良時代の仏教、南都六宗」	
	学習成果	奈良時代から現代へ至る法相宗、華嚴宗、律宗について概要を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	「仏教聖典」の286頁目～「仏教通史」をよく読んでおく。	
11回	授業内容	勤行、坐禅、講義「日本における仏教、天台宗・真言宗」	
	学習成果	天台宗、真言宗について概要を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	「仏教聖典」の286頁目～「仏教通史」をよく読んでおく。	
12回	授業内容	勤行、坐禅、講義「日本における仏教、融通念仏宗・浄土宗」	
	学習成果	浄土信仰、そこから生まれた融通念仏宗・浄土宗について概要を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	「仏教聖典」の286頁目～「仏教通史」をよく読んでおく。	
13回	授業内容	勤行、坐禅、講義「日本における仏教、浄土真宗・時宗」	
	学習成果	浄土真宗・時宗について概要を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	「仏教聖典」の286頁目～「仏教通史」をよく読んでおく。	
14回	授業内容	勤行、坐禅、講義「日本における仏教、臨済宗・曹洞宗・黄檗宗」	
	学習成果	禅宗と呼ばれる臨済宗・曹洞宗・黄檗宗について概要を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	「仏教聖典」の286頁目～「仏教通史」をよく読んでおく。	
15回	授業内容	勤行、坐禅、講義「日本における仏教、日蓮宗」	
	学習成果	日蓮宗について概要を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	授業全体的な内容を改めて整理し復習しておく。	

科目名	文学入門				担当者	セキ 関 根 俊 二						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業 形態	講義	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業中・授業後あるいはオフィスアワー(初回授業で説明)										
専門的 学習成果	①	多様な文学作品について知識をもち、説明することができる。										
	②	深く自由に作品を読み込む方法を把握し、説明することができる。										
	③	文学作品を通して自身の考察力をとらえなおし、説明することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	文学についての教養を身につけ、社会生活をとらえなおすことができる。(専門的学習習成①②③に関連)										
	(2)	言語表現について理解が深まり、言語を自覚的・選択的に用いることができる。(専門的学習習成①③に関連)										
授業概要	社会や人生について主体的にとらえなおすために、文学は格好のツールだと考える。知らなかった世界を疑似体験し、新しい視点の有効なことを教えてくれ、多様な価値観と向き合うことができる。しかし、忙しく生きる私たちは、本来の読書の楽しさや作品をじっくりと読み解く方法を忘れがちである。この授業では、さまざまなジャンルの作品を扱い、文学の知的探求について理解を深めてもらう。また、そのためにも、文学作品を的確に読み取る技術を確認していく。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	100	計10回実施し(授業内での執筆を含む)、独創性と論理的説明の観点で各回10点を配点する。								
汎用的 学習成果	(1)は専門的学習成果①～③で評価を行う。 (2)は専門的学習成果①③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
	U・エーコ		『ウンベルト・エーコ 諸説の森散策』				岩波書店					
	E・ブロンテ		『嵐が丘』				各社の文庫					
	森絵都		『カラフル』				文藝春秋					
	萩尾望都		『萩尾望都作品集9 半神』				小学館					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等			①授業で扱う作品を、授業の前後に読んでおくこと(各回あたり2時間程度)。また、関連する作品も紹介するので、積極的に読み進めてほしい(計15時間程度)。これらの活動は、<発見>を求め、<全体>と向き合うような読書であること。授業外での執筆を課すレポート作成に計15時間程度。 ②提出されるレポートは講評を添え毎回、速やかに返却する。									

授業計画		学習成果の評価
1回	授業内容	オリエンテーション 『嵐が丘』を通し読むことを意識化
	学習成果	読書行為を意識化でき、それについて説明できる。
	予習復習の内容	配布資料（グリム童話）を読み、諸読後の感想をまとめる。
2回	授業内容	グリム童話再読① 「ハンゼルとグレーテル」による主人公の探求
	学習成果	柔軟な解釈の方法について手ごたえをもち、その意義の一端を説明できる。
	予習復習の内容	配布資料を再読する。
3回	授業内容	グリム童話再読② 新たなテーマの追究
	学習成果	さまざまな角度からグリム童話作品について説明できる。
	予習復習の内容	配布資料を再読する。グリム童話の関連作品を読みこむ。
4回	授業内容	宮崎駿アニメを読む① 再考「となりのトトロ」
	学習成果	生産的解釈に立ち会い作品の新しい一面を理解し説明できる。
	予習復習の内容	宮崎駿アニメを視聴する。
5回	授業内容	宮崎駿アニメを読む① 再考「千と千尋の神隠し」
	学習成果	生産的解釈に立ち会い作品の新しい一面を理解し説明できる。
	予習復習の内容	江国香織作品を読んでおく。
6回	授業内容	江国香織「すいかの匂い」を読む
	学習成果	生産的解釈に自ら取り組み作品の新しい一面を理解し説明できる。
	予習復習の内容	同名短編集収録の他の作品を読む。
7回	授業内容	映画「阪急電車」についての考察①
	学習成果	作品が日常をどのように描いているか自身の見解をもち説明できる。
	予習復習の内容	有川浩の原作『阪急電車』を読む。
8回	授業内容	映画「阪急電車」についての考察②
	学習成果	作品に対する見解を深め説明できる。
	予習復習の内容	『植物図鑑』など作者の別の作品を読む。
9回	授業内容	芥川龍之介「羅生門」を読む
	学習成果	原典と比較し何が加えられたのか理解し説明できる。
	予習復習の内容	芥川龍之介「雛」を読んでおく。
10回	授業内容	芥川龍之介「雛」を読む
	学習成果	視点の違いに注目し作品を理解し説明できる。
	予習復習の内容	太宰治「富嶽百景」を読んでおく。
11回	授業内容	太宰治「富嶽百景」を読む
	学習成果	美の創出の観点で作品を理解し説明できる。
	予習復習の内容	美の創出に関わる代表的な作品を紹介するので、読んでおく。村上春樹『蜩』を読む
12回	授業内容	村上春樹『蜩』を読む
	学習成果	作品が日常をどのように描いているか自身の見解をもち説明できる。
	予習復習の内容	同名短編集収録作品を読む。
13回	授業内容	キャラメル・ボックスの演劇作品の鑑賞①
	学習成果	ジャンルによる表現の違いについて理解し説明できる。
	予習復習の内容	該当作品を視聴する。
14回	授業内容	キャラメル・ボックスの演劇作品の鑑賞②
	学習成果	全体を意識しながら作品の特徴について説明できる。
	予習復習の内容	同劇団の他の演劇作品を視聴する。
15回	授業内容	まとめ 読書の方法と可能性についての整理
	学習成果	講義内容全般について理解し説明できる。
	予習復習の内容	講義内容全般を整理する。

科目名	心理学入門				担当者	リュウ ケイ ソン						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業 形態	講義	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業終了後に受け付ける。										
専門的 学習成果	①	心理学が扱うテーマについて説明できる。										
	②	青年期の発達課題と心の問題について説明できる。										
	③	心理的問題への対処法について説明できる。										
	④	心理社会的課題について考察できる。										
	⑤	心理学的知識を日常生活に応用し生活をよりよくなる態度を身につける。										
汎用的 学習成果	(1)	自己についての理解を深める。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(2)	日常生活における問題を解決するための知識と技能を獲得する。(専門的学習成果①②③⑤に関連)										
	(3)	より現代社会を理解し、社会に適応するための技能を身につける。(専門的学習成果④⑤に関連)										
授業概要	本科目では、心理学にはじめて触れる学生のために心理学の基本的な理論や概念について網羅的に解説する。心理学とは心と行動に関する科学的学問であり、その背景には生理学的基盤がある。パーソナリティ心理学・発達心理学・社会心理学の領域を中心に人の考え方や行動のメカニズムを生活と関連付けて解説する。 基本的には講義形式で進めるが、必要に応じてグループワークも行う。これらを通じて、受講者が自己および他者、社会について新たな視点から理解できるようになることを目的としている。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	最終レポート	30	これまでの講義内容から関心のあるテーマについて調べ、レポートを作成・提出する。提出物に基づいて評価を行う。								
		平常点	70	毎回の講義内容の振り返りを内容とするミニットペーパーへの記入・提出及び講義中の発言、グループワークに対する意欲に基づいて評価を行う。								
汎用的 学習成果	汎用的学習成果 (1) (2) (3) については、以下のとおり専門的学習成果により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①②③により評価を行う。 (2) は専門的学習成果①②③⑤により評価を行う。 (3) は専門的学習成果④⑤により評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
			授業の中で紹介する。									
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等			①適宜資料を配布するので、授業中に出てきた用語や関心のあるテーマについて各自で調べ知識を深めるようにすること。自ら理解を深めるために調べた内容を最終レポートに反映させること。 ②授業内でフィードバックする。									

授業計画		学習成果の評価
1回	授業内容	オリエンテーション
	学習成果	本講義での学習計画を把握し、心理学が扱うテーマ及び心理学の日常生活への応用を理解する。
	予習復習の内容	シラバスを読み、学習内容を確認する。 心理学の定義や身近な心理現象を調べ、自分の生活と結びつけて考える。
2回	授業内容	科学的と非科学的な心理学
	学習成果	科学的と非科学的な心理学の違いを理解し、科学的な視点から心理テスト、心理学を捉える。
	予習復習の内容	MBTIテストを受け、その結果や感想を記録する。 授業で学んだ批判的視点を使い、他の心理テストや占いを分析する。
3回	授業内容	学習と記憶
	学習成果	記憶の仕組みを理解し、学習効率を高める具体的な方法を実践できる。
	予習復習の内容	自身の現在の学習法や記憶の仕方を振り返る。 授業で紹介された記憶法を日常学習に取り入れ、効果を確認する。
4回	授業内容	動機づけと目標設定
	学習成果	動機づけの理論を学び、SMART目標設定法を用いて目標を明確化し、行動計画を作成する力を養う。
	予習復習の内容	達成したい目標を1つと、なぜそれが重要かについて考える。 SMART目標設定法を活用し、目標達成のための行動計画を作成する。
5回	授業内容	自信、自尊心と自己肯定感
	学習成果	自尊心の基礎を学び、自己肯定感を高める方法を学ぶ
	予習復習の内容	自身の強みや自信を持てる出来事を3つ挙げる。 授業で学んだ自己肯定感を高める方法を日常生活で試す。
6回	授業内容	感情とストレス管理
	学習成果	感情の役割を理解し、ストレスに対処する実用的なスキルを習得する。
	予習復習の内容	最近感じたストレスや感情の起伏、また、それがなぜ起きたかについて考える。 授業で学んだリラクゼーション法を日常生活で試す。
7回	授業内容	幸福感とポジティブ心理学
	学習成果	幸福感の要因を理解し、日常生活に活かすための方法を考えられる。
	予習復習の内容	自分が最近感謝した出来事や嬉しかった瞬間を振り返る。
8回	授業内容	キャリア発展
	学習成果	(特に女性の)キャリア形成における課題を認識し、対処方法を考えられる。
	予習復習の内容	理想のキャリア像と、それに向けた懸念や課題について考える。 授業内容に基づいて自分のキャリア計画を見直す。
9回	授業内容	バイアス、ステレオタイプ(固定観念)と差別
	学習成果	ジェンダー・ステレオタイプを含むステレオタイプの形成とその影響を理解し、対処方法を学ぶ。
	予習復習の内容	日常生活で感じた(特に性別に基づく)ステレオタイプの例を考える。 授業内容に基づき、日常生活におけるステレオタイプを認識し、その影響に対処する。
10回	授業内容	社会的影響と集団行動
	学習成果	同調行動と批判的思考の重要性、集団行動の心理的影響を理解する。
	予習復習の内容	集団行動の中で経験した「同調」の例やその影響を考える。 授業で学んだ方法を使い、同調や群衆心理を意識して行動してみる。
11回	授業内容	人間関係とコミュニケーション
	学習成果	効果的なコミュニケーション方法と傾聴の技術を実践的に学ぶ。
	予習復習の内容	最近の会話で難しかった場面や理由を振り返る。 授業で学んだ傾聴スキルを用い、他者との対話を振り返る。
12回	授業内容	恋愛、愛情、多様な性のあり方
	学習成果	健康な恋愛と不健康な関係の特徴とその対処法について学ぶ。多様な性を理解する。
	予習復習の内容	理想の恋愛像や関係で気になることを考え、メモする。 授業内容について自分の人間関係について考えてみる。
13回	授業内容	メンタルヘルス
	学習成果	精神疾患を正しく理解し、適切な対処法と相談先を知る。
	予習復習の内容	精神疾患について、身近な例やイメージを考えてみる。 授業内容を整理し、精神疾患の兆候や相談先を再確認する。
14回	授業内容	テクノロジーと心理学-デジタル時代の心の健康-
	学習成果	SNS利用の影響を理解し、SNSにおけるネガティブな現象への対処方法を学ぶ。
	予習復習の内容	1日のSNS利用時間やアプリ使用頻度を振り返る。 デジタルデトックスを実践する。
15回	授業内容	まとめ
	学習成果	これまでの講義内容を説明できる。
	予習復習の内容	これまでの講義内容を整理する。

科目名	ボランティア				担当者	サイ トウ ミ カ 齋 藤 美 香						
区 分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	通年
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		研究室への訪問										
専門的 学習成果	①	ボランティアの意義を理解し、必要性を説明できる。										
	②	ボランティア活動が担う社会的役割を理解し、重要性を説明できる。										
	③	分野別ボランティア活動の基礎知識を理解し、実際の現場で活用できる。										
汎用的 学習成果	(1)	ボランティア活動の歴史や原則を学ぶことを通して、社会生活に活かすことができる。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(2)	ボランティア活動に期待される社会的役割を学ぶことを通して、社会貢献をすることができる。(専門的学習成果②③)										
	(3)	幅広い分野(災害、児童、高齢者、障害児・者等)のボランティアスキルを身に付け、地域社会で支援活動ができる。(専門的学習成果③に関連)										
授業概要	ボランティア活動に関する基礎知識、ボランティア活動の組織や団体、ボランティア活動のポイント(ルールや態度など)、ボランティア活動に関する情報の取得方法について学ぶ。そして、理論だけでなく具体的な活動として、学外施設や団体等において15時間以上のボランティア活動に参加することで、個人の成長や経験を積むだけでなく、多世代との交流からコミュニケーション能力を高めたり、ボランティア活動を行う地域の課題を発見して、解決策を探ることなどをとおして、人間力や実践力を身につける。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合(%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		提出物	80	ボランティア活動申請書・活動報告書・活動報告会の内容から評価を行う								
		平常点	20	授業態度やリアクションペーパーの内容等から評価を行う								
汎用的 学習成果	(1)は、専門的学習成果①②③により評価を行う。 (2)は、専門的学習成果②③により評価を行う。 (3)は、専門的学習成果③により評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
	田中康雄・小口将典・竹下徹編著		『ボランティア活動論』						ミネルヴァ書房			
	久米 隼		『ボランティアの基礎』						日本橋出版			
	久米 隼(編著)		『ボランティアの実践スキル』						日本橋出版			
	ツノダ ヒロカズ		『入門編 ボランティアの教科書』						ごきげんビジネス出版			
	猪瀬 浩平		『ボランティアってなんだっけ?』						岩波ブックレット			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①特に使用しない。授業時に適宜紹介する。レジュメ等を配布する。 単位認定として、1～4回の授業の受講、学外施設・団体等における15時間以上の活動、各種提出物、15回目のボランティア報告会への参加のすべての条件を充たすこととする。授業内容によっては、グループワークを適宜取り入れ、学生同士のディスカッションの場を予定している。ボランティア活動にあたっては、事前および事後学習(提出書類)がある。(予習:週2時間程度、復習:週2時間程度)②ボランティア活動日誌・報告書作成、報告会のフィードバックを行う。										

科目名	社会福祉入門				担当者	サイ トウ ミ カ 齋 藤 美 香						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業 形態	講義	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		研究室への訪問、または saito.mika@seiwa.ac.jp への連絡（学籍番号、氏名記載必須）										
専門的 学習成果	①	社会福祉の基本的な仕組みを説明することができ、社会保障などのあり方を論ずることができる										
	②	社会福祉専門職者としての専門性と資質を述べることができ、自らの社会福祉援助観を講ずることができる										
	③	社会福祉を実践するうえでの人権擁護の視点や職業倫理を獲得することができる										
汎用的 学習成果	(1)	国や自治体の行政に対して社会福祉や社会保障のあり方について提言することができる（専門的学習成果①に関連）										
	(2)	社会福祉の利用者に対して、その課題に誠実に対応することができる（専門的学習成果②に関連）										
	(3)	利用者の課題解決に向けて、関係者や関係機関と十分に連携・協働することができる（専門的学習成果③に関連）										
授業概要	社会福祉の意義・理念・方法等について学習し、現代社会を取り巻く社会福祉の実態（ニュースや話題）の理解および今日の課題への対処について考察を深める。また、社会福祉に至る歴史については、アメリカ、イギリス、日本などの歴史を概説する。さらには、社会福祉の法律や財政について理解を深め、生活保護、子ども家庭福祉、障がい者福祉、高齢者福祉、地域福祉の各領域の現状と課題を明らかにする。そして、社会福祉援助者、社会福祉専門職としての必要な倫理観、援助技術等について学習する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	レポート	70	これまでの学習内容に基づき、自分の考えを論理的にまとめたものを、評価を行う。								
		レポート以外の 提出物	30	社会福祉の価値や倫理を問い、文脈や内容で評価を行う。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①で評価を行う。 (2) は専門的学習成果②で評価を行う。 (3) は専門的学習成果③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
	大久保 秀子		『新 社会福祉とは何か 第4版』						中央法規			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等			①テキスト、レジュメ、配布資料を活用し授業を進める。事前学習として、テキストを読み予習してくる。関連部分について新聞やテレビ、文献などから情報収集しておくこと。（予習：週2時間程度）事後学習としては、テキスト、配布物、記録ノートを読み返して復習すること。（復習：週2時間程度）②テキストの「章のまとめ」に沿ったディスカッションを行い、その内容についてコメント的に解説する。レポートについては、評価終了後に授業内で総括的に解説する。									

授業計画		学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス（授業の進め方、留意事項、成績評価等）
	学習成果	シラバスを精読し、学習内容を理解する
	予習復習の内容	テキスト、文献を読み、関連情報を収集して予習する。授業内容を振り返って復習する
2回	授業内容	社会福祉とは何か
	学習成果	社会福祉の定義を説明できる
	予習復習の内容	テキスト、文献を読み、関連情報を収集して予習する。授業内容を振り返って復習する
3回	授業内容	現代社会と福祉
	学習成果	現代社会の福祉ニーズを説明できる
	予習復習の内容	テキスト、文献を読み、関連情報を収集して予習する。授業内容を振り返って復習する
4回	授業内容	社会福祉の歴史（欧米）
	学習成果	社会福祉の歴史と改革を理解し、概要を説明できる
	予習復習の内容	テキスト、文献を読み、関連情報を収集して予習する。授業内容を振り返って復習する
5回	授業内容	社会福祉の歴史（日本）
	学習成果	社会福祉の歴史と改革を理解し、概要を説明できる
	予習復習の内容	テキスト、文献を読み、関連情報を収集して予習する。授業内容を振り返って復習する
6回	授業内容	社会福祉の法体系
	学習成果	法制度の詳細を理解し、原理・原則を説明できる
	予習復習の内容	テキスト、文献を読み、関連情報を収集して予習する。授業内容を振り返って復習する
7回	授業内容	社会福祉の行政と制度
	学習成果	制度の役割、機能、原理を説明できる
	予習復習の内容	テキスト、文献を読み、関連情報を収集して予習する。授業内容を振り返って復習する
8回	授業内容	権利擁護と成年後見制度
	学習成果	制度の役割、機能、原理を説明できる
	予習復習の内容	テキスト、文献を読み、関連情報を収集して予習する。授業内容を振り返って復習する
9回	授業内容	社会保障のしくみ（社会保障制度、年金、生活保護、医療保険、介護保険）
	学習成果	制度の役割、機能、原理を説明できる
	予習復習の内容	テキスト、文献を読み、関連情報を収集して予習する。授業内容を振り返って復習する
10回	授業内容	こども家庭福祉（少子高齢社会、児童福祉法、子ども虐待）
	学習成果	制度の詳細を理解し、原理・原則を説明できる
	予習復習の内容	テキスト、文献を読み、関連情報を収集して予習する。授業内容を振り返って復習する
11回	授業内容	障害者福祉（国際生活機能分類、障害児福祉計画、障害者福祉計画）
	学習成果	制度の詳細を理解し、説明できる
	予習復習の内容	テキスト、文献を読み、関連情報を収集して予習する。授業内容を振り返って復習する
12回	授業内容	高齢者福祉（認知症の人の支援の変遷、認知症の基本）
	学習成果	制度の詳細を理解し、説明できる
	予習復習の内容	テキスト、文献を読み、関連情報を収集して予習する。授業内容を振り返って復習する
13回	授業内容	地域福祉（地域福祉の歴史、地域共生社会の実現、地域包括的ケアシステム）
	学習成果	今日の地域の状況を踏まえて地域福祉の意義を説明できる
	予習復習の内容	テキスト、文献を読み、関連情報を収集して予習する。授業内容を振り返って復習する
14回	授業内容	ソーシャルワーク（社会福祉援助技術）の基本
	学習成果	社会福祉援助技術の種類を理解し、社会的な支援を必要とする人への対応ができる知識と技術と心をつける
	予習復習の内容	テキスト、文献を読み、関連情報を収集して予習する。授業内容を振り返って復習する
15回	授業内容	これからの社会福祉の動向とまとめ
	学習成果	社会福祉の動向についてまとめること
	予習復習の内容	テキスト、文献を読み、関連情報を収集して予習する。授業内容を振り返って復習する

科目名	暮らしの中の憲法				担当者	ミヅモリ トシマサ 三 森 敏 正						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業 形態	講義	学年	1・2年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		教務課を通して連絡										
専門的 学習成果	①	国家と憲法の間を関係し、説明することができる。										
	②	憲法の意味を理解し、論じることができる。										
	③	立憲主義について理解し、説明することができる。										
	④	幸福追求権・法の下での平等について理解し、説明することができる。										
	⑤	新しい人権について理解し、論じることができる。										
	⑥	自由権・社会論を理解し、論じることができる。										
	⑦	基本的人権と統治論の間を関係し、論じることができる。										
汎用的 学習成果	(1)	憲法の意義を理解し、基本的人権に配慮した社会生活を送ることができる。(専門的学習成果の①～⑦に関連)										
	(2)	新たな問題に関して、基本的人権の観点から対処できる。(専門的学習成果の④に関連)										
	(3)	自由権、社会権を理解し、状況に応じて国家、地方自治体への要請などができる。(専門的学習成果の⑥⑦に関連)										
	(4)	人として生きる意味を理解し、社会生活にいかすことができる。(専門的学習成果の①～⑦に関連)										
授業概要	日本国憲法を取り巻く状況は、今世紀に入ってから急激に変化している。そのため、未来志向の議論をすすめることは大切である。本講義においては、他の法律との関係も重視しながら、教育の現場で働くことの注意点についても解説していきたい。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	80	これまでの学習内容に基づき、評価を行う。								
		レポート	10	Rシートについて評価を行う。								
		平常点	10	積極的に授業へ取り組む意欲や態度について評価する。								
汎用的 学習成果	(1)は専門的学習成果①～⑦で評価を行う。 (2)は専門的学習成果④で評価を行う。 (3)は専門的学習成果⑥⑦で評価を行う。 (4)は専門的学習成果①～⑦で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
	棟居 快行・松井 茂記 他編		『基本的人権の事件簿 憲法の世界へ 第6版』						有斐閣			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
	山下・宇賀 代表		『ポケット六法 令和3年版』						有斐閣			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等			①教科書・六法は必ず持参すること。授業中の態度も評価する。 ②ノートは必ず取ることが大切である。									

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	立憲主義	毎回理解度と質問等を記載するRシートを配布・回収する
	学習成果	立憲主義を理解する。	
	予習復習の内容	立憲主義を理解する。	
2回	授業内容	日本国憲法の成立	
	学習成果	日本国憲法の成立過程を理解する。	
	予習復習の内容	日本国憲法の成立過程を理解する。	
3回	授業内容	日本国憲法の基本原理	
	学習成果	日本国憲法の基本原理を理解する。	
	予習復習の内容	日本国憲法の基本原理を理解する。	
4回	授業内容	個人主義、私人間効力、幸福追求権	
	学習成果	個人主義、私人間効力、幸福追求権を理解する。	
	予習復習の内容	個人主義、私人間効力、幸福追求権を理解する。	
5回	授業内容	新しい人権、自己決定権	
	学習成果	新しい人権、自己決定権を理解する。	
	予習復習の内容	新しい人権、自己決定権を理解する。	
6回	授業内容	治療拒否と自己決定権	
	学習成果	治療拒否と憲法との関係を理解する。	
	予習復習の内容	判例を分析する。	
7回	授業内容	夫婦別姓と自己決定権	
	学習成果	夫婦別姓と憲法との関係を理解する。	
	予習復習の内容	判例を分析する。	
8回	授業内容	プライバシー権	
	学習成果	プライバシー権と憲法との関係を理解する。	
	予習復習の内容	プライバシー権と憲法との関係を理解する。	
9回	授業内容	法の下での平等	
	学習成果	法の下での平等を理解する。	
	予習復習の内容	判例を分析する。	
10回	授業内容	精神的自由、思想・良心の自由	
	学習成果	精神的自由、思想・良心の自由を理解する。	
	予習復習の内容	判例を分析する。	
11回	授業内容	信教の自由、学問の自由	
	学習成果	信教の自由と学問の自由を理解する。	
	予習復習の内容	信教の自由と学問の自由を理解する。	
12回	授業内容	表現の自由	
	学習成果	表現の自由を理解する。	
	予習復習の内容	表現の自由を理解する。	
13回	授業内容	経済的自由権	
	学習成果	経済的自由権を理解する。	
	予習復習の内容	経済的自由権を理解する。	
14回	授業内容	人身の自由	
	学習成果	人身の自由を理解する。	
	予習復習の内容	人身の自由を理解する。	
15回	授業内容	社会権	
	学習成果	社会権を理解する。	
	予習復習の内容	社会権を理解する。	

科目名	経済のしくみ				担当者	モト 吉 祥 子						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業 形態	講義	学年	1・2年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業前後に教室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	政府が行っている各種経済政策について説明できる。										
	②	消費者と生産者の行動原理について説明できる。										
	③	市場における価格決定について説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	経済のしくみを理解し、社会生活に活かすことができる（専門的学習成果①②③に関連）										
	(2)	経済的諸問題について判断力を有し主体的行動をとることができる（専門的学習成果①②③に関連）										
授業概要	私たちの生活は社会経済活動と密接に結びついており、その点に関して経済学は大切な学問の一分野と言えるが、苦手意識を持っている人が多い。この授業は特に社会経済を理解する上で基本的かつ重要な科目である「マクロ経済学」、「ミクロ経済学」を取り扱う。政府の役割や個人・企業の行動原理、市場の仕組みについて、その基本理論を理解し、私たちの生活との関連性について考える。経済学は専門用語が多く、難解であるが、各種経済問題について解決力・思考力を養えるように基本的な部分の内容を講義する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		小テスト	70	毎回簡単な小テスト（範囲は前回授業分）を行い評価する。								
		平常点	30	授業の態度・関心を評価する。								
汎用的 学習成果	(1)は専門的学習成果①②③で評価を行う。 (2)は専門的学習成果①②③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名							出版社名			
	石川秀樹	『みんな欲しかった！公務員 合格へのはじめの一步 経済科目』							TAC 出版			
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名							出版社名			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①事前にテキストに目を通し、授業で取り扱う内容がどのようなものか把握しておく（予習：週1時間程度）。授業後はわからない部分を明確にし、テキストに再度目を通す（復習：週1時間程度）。日頃より新・テレビ・ネットなどで経済についての情報に関心を持つようにする（30時間）。 ②小テストについては、毎回テスト後に解説付き解答を配布する。										

授業計画		学習成果の評価	
1回	授業内容	オリエンテーション①（経済学の思考方法について）	授業の態度・関心を評価
	学習成果	経済の理論モデルについて説明できる。	
	予習復習の内容	経済の分析方法について理解を深める。	
2回	授業内容	オリエンテーション②（古典派とケインズ派の違いについて）	授業の態度・関心を評価
	学習成果	古典派とケインズ派の市場の捉え方の違いについて説明できる。	
	予習復習の内容	世界経済が大恐慌に対してそのように対応したのか理解を深める。	
3回	授業内容	マクロ経済学①（GDPと物価）	出席・小テストで評価
	学習成果	GDPを始めとした国民経済計算概念について説明できる。	
	予習復習の内容	GDPという指標概念の限界について考えてみる。	
4回	授業内容	マクロ経済学②（財市場分析）	出席・小テストで評価
	学習成果	インフレギャップ、デフレギャップについて説明できる。	
	予習復習の内容	ギャップの解消方法について理解を深める。	
5回	授業内容	マクロ経済学③（乗数）	出席・小テストで評価
	学習成果	乗数効果について説明できる。	
	予習復習の内容	なぜ乗数が重要な概念なのか考えてみる。	
6回	授業内容	マクロ経済学④（貨幣市場分析）	出席・小テストで評価
	学習成果	貨幣供給のしくみについて説明できる。	
	予習復習の内容	ケインズの流動性理論について理解を深める。	
7回	授業内容	マクロ経済学⑤（金融政策とその効果）	出席・小テストで評価
	学習成果	具体的に実施されている金融政策について説明できる。	
	予習復習の内容	金融政策が無効となるケースについて理解を深める。	
8回	授業内容	マクロ経済学⑥（財政政策とその効果）	出席・小テストで評価
	学習成果	具体的に実施されている財政政策について説明できる。	
	予習復習の内容	財政政策が無効となるケースについて理解を深める。	
9回	授業内容	ミクロ経済学①（需要曲線）	出席・小テストで評価
	学習成果	消費者の効用最大化行動について説明できる。	
	予習復習の内容	代替効果、所得効果について理解を深める。	
10回	授業内容	ミクロ経済学②（供給曲線）	出席・小テストで評価
	学習成果	企業の利潤最大化行動について説明できる。	
	予習復習の内容	企業がどのように生産量を決定するのか理解を深める。	
11回	授業内容	ミクロ経済学③（市場理論）	出席・小テストで評価
	学習成果	価格がどのように決定されるのか説明できる。	
	予習復習の内容	ワルラス調整過程とマーシャル調整過程について理解を深める。	
12回	授業内容	ミクロ経済学④（余剰分析）	出席・小テストで評価
	学習成果	パレート最適について説明できる。	
	予習復習の内容	効率性と公平性の違いについて考えてみる。	
13回	授業内容	ミクロ経済学⑤（不完全競争理論）	出席・小テストで評価
	学習成果	完全競争市場と不完全競争市場の違いについて説明できる。	
	予習復習の内容	不完全競争市場（独占・寡占）の弊害について考えてみる。	
14回	授業内容	ミクロ経済学⑥（外部経済）	出席・小テストで評価
	学習成果	市場の失敗について説明できる。	
	予習復習の内容	外部不経済の内部化について理解を深める。	
15回	授業内容	ミクロ経済学⑦（公共財）	出席・小テストで評価
	学習成果	公共財の非競争性・非排他性について説明できる。	
	予習復習の内容	リンダールの解法について理解を深める。	

科目名	ライフデザイン総合				担当者	サイ トウ タカ シ 齊 藤 尚 志						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業内容や課題に関する質問は、各教員のオフィスアワー、または電子メールにて随時受け付ける。										
専門的 学習成果	①	ライフデザインがなぜ重要なのかを理解し、その必要性を説明することができる。										
	②	ライフデザインを通して自身の人生を振り返るとともに、今後についても主体的に考えることができる。										
	③	人生における様々な時期を理解し、自分だけではなく他者への理解を示すことができる。										
	④	学んだ戦略や仕掛けを自分の将来設計やキャリア形成に応用できる。										
汎用的 学習成果	(1)	社会的・職業的自立に必要な知識と技能を習得し、一人の大人として社会に貢献することができる。 (専門的学習成果①②③④)										
	(2)	ライフデザインを通して得た人との関わりに必要な論理的思考、自己表現、他者理解、問題解決の能力を有し、他者と協働することができる。(専門的学習成果①②③④)										
	(3)	ライフデザインを通して得た専門的知識や技能を活用して課題に取り組み、地域社会の発展へ積極的に貢献することができる。(専門的学習成果①②③④)										
授業概要	本講義は、人の誕生から老年期までの「生涯発達」というテーマを、世界最高峰のエンターテインメントである「東京ディズニーリゾート (TDR)」と「ユニバーサル・スタジオ・ジャパン (USJ)」の戦略・思想をレンズにして読み解く、全く新しいライフデザイン授業です。前半は、乳幼児期からの成長をパークの「世界観構築」や「キャスト教育」に重ね、あなたの「自分らしさ」というブランドを確立します。中盤は、USJの伝説的な再建劇から「逆境を突破するキャリア戦略」や「価値を高める経済感覚」を伝授。終盤は、全世代が輝く「ユニバーサルデザイン」の視点から捉え直し、全世代が楽しめる人生設計を探究します。最終的には、自分自身の人生を一つの「テーマパーク」に見立て、独自のブランドコンセプトとライフプランを構築できる能力を身につけることを目標とします。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	60	毎回の授業で提出 (参加カード：小テスト) (各4点×15回)								
		平常点	20	講義内容の理解度、事例分析力、考察の深さを基準に評価する。								
		総合試験	20	最後の授業 (15回) で試験								
汎用的 学習成果	汎用的学習成果 (1) (2) (3) については、以下のとおり専門的学習成果により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①②③④により行う。 (2) は専門的学習成果①②③④により行う。 (3) は専門的学習成果①②③④により行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①準備学習等履修上の留意点 授業への主体的な参加姿勢、発言内容の質、ディスカッションやグループワークにおける協働姿勢、発表時の表現力および他者の意見を踏まえた思考の深化などを総合的に評価するため、毎回の授業時に学習内容の復習や、次回への反省等を踏まえて授業に臨むこと。(予習：週2時間程度) 講義内で学習したことについて各自のライフデザインに合わせて振り返ること。(復習：週2時間程度) ②フィードバックの方法等 提出した各種レポートについては講義時にフィードバックを行う。										

授業計画		学習成果の評価	
1回	授業内容	オリエンテーション	参加カード提出
	学習成果	人生の全体像と授業の狙い（パークの「全体マップ」と「人生地図」）を比較できる	
	予習復習の内容	人生の全体像をマップで考える	
2回	授業内容	乳児期・幼児期の理解	参加カード提出
	学習成果	信頼性の形成と安心できる居場所（ディズニーの「世界観（安全・安心）」の原点を説明できる	
	予習復習の内容	ウォルトディズニーは、なぜディズニーランドを創ったのかを調査する	
3回	授業内容	児童期の成長と遊び	参加カード提出
	学習成果	ルールの中での創造性（アトラクション誕生の裏側とヒットの法則）を説明できる	
	予習復習の内容	「創造性」の事例を探す	
4回	授業内容	青春期のアイデンティティ ①	参加カード提出
	学習成果	自分とは何か？ブランドの確立（ディズニーの「一貫性」VS USJの「多様性」）を説明できる	
	予習復習の内容	自分の強み、自分らしさとは何かを記録しておく	
5回	授業内容	青春期のアイデンティティ ②	参加カード提出
	学習成果	自己効力感、キャストの接客教育と笑顔の真髓を理解し、コミュニケーションが取れる	
	予習復習の内容	理想の接客を書き出してみる	
6回	授業内容	成人期への移行と自律（パーク内ルールの意味とゲストの行動心理）	参加カード提出
	学習成果	「自立」から「自律」へ自由について論じることができる	
	予習復習の内容	自立から自律への違いを理解する	
7回	授業内容	キャリア形成の戦略論 ①（USJ 再建に学ぶ「大胆な戦略転換」）	対談振り返り提出
	学習成果	逆境からの回復力（レジリエンス）について論じることができる	
	予習復習の内容	「レジリエンス」について調べる	
8回	授業内容	キャリア形成の戦略論 ②（パークチケット価格と自分自身の価値の相関）	参加カード提出
	学習成果	自分の市場価値と社会的役割を認識し、論じることができる	
	予習復習の内容	自分の「価値観」について調べる	
9回	授業内容	中年期のライフプランニング	参加カード提出
	学習成果	人生の修正（ミッドライフクライシス）と再構築（海外パークの成功と環境適応力）ができる	
	予習復習の内容	ミッドライフ・クライシスについて調べる	
10回	授業内容	社会情勢と生活設計（経済）	参加カード提出
	学習成果	経済情勢が個人の選択に与える影響（購買導線とお金を使いたくなる仕組み）	
	予習復習の内容	売場の配置を観察する	
11回	授業内容	社会情勢と生活設計（政治）	参加カード提出
	学習成果	社会システムと共生するライフデザイン（パーク運営を支える公共性と制度）を設計できる	
	予習復習の内容	社会システムとライフデザインについて調べる	
12回	授業内容	老年期の理解 ①（世代を超えて愛される「伝統」とは）	自己分析シート提出
	学習成果	加齢に伴う変化と「普遍的な価値」を挙げるができる	
	予習復習の内容	普遍的な価値について調べる	
13回	授業内容	老年期の理解 ②（全世代が楽しめるユニバーサルデザイン）	企画構想提出
	学習成果	生きがいと社会参加、多世代交流の意義を論じることができる	
	予習復習の内容	ユニバーサルデザインについて調べる	
14回	授業内容	ライフデザインを表現する	グループ発表評価
	学習成果	自分の人生を一つの物語として発表し、「自分をテーマパーク化」してプレゼンできる	
	予習復習の内容	自分の人生を「テーマパーク化」して考えてみる	
15回	授業内容	総括と最終レポート	最終レポート提出
	学習成果	15回の学びを整理し未来に向けて描く（人生のグランドフィナーレ）ことができる	
	予習復習の内容	最終レポート作成	

科目名	英語コミュニケーション				担当者	川 辺 博 カワベ ヒロシ						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業 形態	演習	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	kawabe.hiroshi@seiwa.ac.jp オフィスアワーについては授業内で連絡する。											
専門的 学習成果	①	英会話の基本表現を理解し、使うことができる。										
	②	英語で質問したり、自分のことを英語で説明できる。										
	③	英語学習をとおして異文化や外国語全般への関心を深める。										
汎用的 学習成果	(1)	英語の運用能力を高め、社会生活で主体的に活用できる。(専門的学習成果の①②に関連)										
	(2)	外国語や異文化に理解と関心を深め、自分とは異なる文化的背景をもつ人とも協働できる。(専門的学習成果の③に関連)										
授業概要	英会話で使用頻度の高い表現に限定して練習をおこなう。日本人学生が誤りやすい、または習得に困難のある発音については、調音音声学的な観点から特に丁寧に指導する。並行して、基本的な文法事項を確認する。会話形式の練習では、単に声を出すだけでなく、セリフに感情をこめて「演じる」ことを求める。教科書に示されたサンプルの表現から発展して「同じ場面自分ならこう言う」という応用力・想像力を向上させる。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	60	筆記試験により、内容の理解の程度と運用技能の水準を把握する。								
		小テスト	40	授業時間中に、復習のための小テストを3回程度実施する。また、応用力を測定するための小テストを随時おこなう。								
汎用的 学習成果	(1)は専門的学習成果①②によって評価をおこなう。 (2)は専門的学習成果の③によって評価をおこなう。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名						出版社名				
	妻鳥千鶴子	『新ゼロからスタート 英会話』						Jリサーチ出版				
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名						出版社名				
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①授業は実際に練習する時間と位置づけ、解説は必要最小限とする。教科書で使われている単語や文法事項は、前もって調べておくこと。付属の音声CD(スマートフォン用のアプリによりダウンロード可能)をあらかじめ聞き、耳を慣らしておくこと(予習:週2時間程度)。授業後は各自または友人と組んで練習すること(復習:週2時間程度)。 ②小テストおよび期末試験は返却し、その際に解説をおこなう。											

授業計画			学習成果の評価	
1回	授業内容	ガイダンス	応用テストを毎回、小テストを第5回に実施	
	学習成果	この授業の内容を理解するとともに、外国語学習の意義を自分なりに説明できる。		
	予習復習の内容	前もってシラバスを読み理解する。ガイダンスにもとづき学習計画を立てる。		
2回	授業内容	(1) お礼を言う (2) 謝罪する		
	学習成果	感謝を伝える表現と謝罪の表現を使うことができる。		
	予習復習の内容	感謝を伝える表現と謝罪の表現を整理する。		
3回	授業内容	(3) 声をかける (4) 欲求を表す		
	学習成果	他人に話しかける表現と欲求を伝える表現を使うことができる。		
	予習復習の内容	他人に話しかける表現と欲求を伝える表現を整理する。		
4回	授業内容	(5) 依頼する (6) 提案する・勧誘する		
	学習成果	相手に依頼する表現と提案・勧誘の表現を使うことができる。		
	予習復習の内容	相手に依頼する表現と提案・勧誘の表現を整理する。		
5回	授業内容	(7) 許可を求める (8) 丁寧に許可を求める		
	学習成果	許可を求める表現を使うことができる。		
	予習復習の内容	許可を求める表現を整理する。		
6回	授業内容	(9) アドバイスする (10) 可能を表す	応用テストを毎回、小テストを第10回に実施	
	学習成果	アドバイスの表現と能力を表す表現を使うことができる。		
	予習復習の内容	アドバイスの表現と能力を表す表現を整理する。		
7回	授業内容	(11) 思う (12) 残念なことを話す		
	学習成果	思考を表す表現と相手を気づかう表現を使うことができる。		
	予習復習の内容	思考を表す表現と相手を気づかう表現を整理する。		
8回	授業内容	(13) 嬉しい・楽しい (14) 楽しむ		
	学習成果	喜びや楽しみを表す表現を使うことができる。		
	予習復習の内容	喜びや楽しみを表す表現を整理する。		
9回	授業内容	(15) 悲しむ (16) 驚く		
	学習成果	悲しみと驚きの表現を使うことができる。		
	予習復習の内容	悲しみと驚きの表現を整理する。		
10回	授業内容	(17) 怒る (18) 義務・必要		
	学習成果	怒りの表現と義務を表す表現を使うことができる。		
	予習復習の内容	怒りの表現と義務を表す表現を整理する。		
11回	授業内容	(19) 賛成・反対 (20) 確信する	応用テストを毎回、小テストを第14回に実施	
	学習成果	賛成・反対の表現と確信を表す表現を使うことができる。		
	予習復習の内容	賛成・反対の表現と確信を表す表現を整理する。		
12回	授業内容	(21) Yes/No 疑問文 (22) 付加疑問文		
	学習成果	Yes/No 疑問文と付加疑問文を使うことができる。		
	予習復習の内容	Yes/No 疑問文と付加疑問文を整理する。		
13回	授業内容	(23) 否定疑問文 (24) 選択疑問文		
	学習成果	否定疑問文と選択疑問文を使うことができる。		
	予習復習の内容	否定疑問文と選択疑問文を整理する。		
14回	授業内容	(25) 時を聞く (26) 場所を聞く		
	学習成果	時と場所を尋ねる表現を使うことができる。		
	予習復習の内容	時と場所を尋ねる表現を整理する。		
15回	授業内容	(27) 「だれ」を聞く (28) 「何」を聞く		期末試験の内容に含める
	学習成果	人間や事柄を尋ねる表現を使うことができる。		
	予習復習の内容	人間や事柄を尋ねる表現を整理する。		

科目名	韓国語入門				担当者	加藤 慧						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業 形態	演習	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		各授業の前後に対応。										
専門的 学習成果	①	韓国語のハングル文字が書ける。										
	②	韓国語のハングル文字が読める。										
	③	韓国語で基本的な挨拶ができる。										
	④	韓国語の基本文型を理解し自己紹介等ができる。										
	⑤	韓国語を通じたコミュニケーションをとることができる。										
汎用的 学習成果	(1)	勉強の方法を身に付けるとともに、国際化社会を生きる幅広い教養を身に付けることができる。(専門的学習成果①～⑤に関連)										
	(2)	多様なコミュニケーション能力を養い、グローバルな時代を生き抜く力を付けることができる。(専門的学習成果③～⑤に関連)										
	(3)	隣国の言語や文化を理解し、自分達の言語の特徴や良さを理解することができる。(専門的学習成果①～⑤に関連)										
	(4)	積極的な自己発信ができ、また他者を理解する力を付け、共に生きる力をつけることができる。(専門的学習成果④⑤に関連)										
授業概要	いま現代は「国際化」、「情報化」の時代です。この「国際化」、「情報化」の時代に生き残るためには外国語の理解が必要不可欠です。また、韓国語は日本からすると色々な意味で一番近い言語です。この授業では韓国語を初めて学ぶ人の為にハングルの読み書きから始めます。基本文型を中心にしながらも直ぐにでも使える表現の習得も目指します。授業では韓国ドラマや映画等も取り入れて行います。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	50	学期内まで学習した内容に基づき、記述式の問題を課し、成績評価を行う。								
		平常点	20	授業参加態度や課題提出等を総合して評価を行う。								
		小テスト	30	毎回小テストを課し、評価を行う。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①②③④⑤で評価を行う。 (2) は専門的学習成果③④⑤で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①②③④⑤で評価を行う。 (4) は専門的学習成果④⑤で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
	omo!		『使える会話文で身につくはじめましての韓国語』						池田書店			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等			①授業をやすまないこと。 声を出して練習すること。 宿題や課題を真面目に提出すること。 ②毎回一時間程度で終わる課題を課す。課題は添削して返す。									

授業計画		学習成果の評価
1回	授業内容	韓国語を学ぶ意義とハングルについて
	学習成果	韓国語を学ぶ意義とハングルについて説明できる。
	予習復習の内容	韓国語の歴史やハンゲルの仕組みについて
2回	授業内容	ハンゲルの母音と子音の書き方と読み方
	学習成果	ハンゲルの母音と子音が書いて、読むことができる。
	予習復習の内容	ハングル文字の書き方や読み方
3回	授業内容	ハンゲルの音節の構成と読み方
	学習成果	日本語の音節と比較してハンゲルの音節と特徴が理解でき、読むことができる。
	予習復習の内容	ハングル音節表の作りや読み方
4回	授業内容	ハングル語彙の読み方と自分の名前をハングルで書いてみる。
	学習成果	ハングル文字が読めて、ハングルで自分の名前が書ける。
	予習復習の内容	ハングルで自分の名前や身近な語彙をハングルで書いてみる。
5回	授業内容	簡単な挨拶表現と授業で使う韓国語表現
	学習成果	簡単な挨拶表現と授業で使う韓国語表現を話すことができる。
	予習復習の内容	簡単な挨拶表現や授業で使う韓国語表現を書きながら覚える。
6回	授業内容	名詞文とその文型練習
	学習成果	韓国語の名詞文とその文型の理解ができる。
	予習復習の内容	本文を暗記し、練習問題を自分の力でする。
7回	授業内容	自己紹介の実践会話と受け答え練習
	学習成果	韓国語で自己紹介ができ、その受け答えができる。
	予習復習の内容	自己紹介ができるように練習し、その課題をする。
8回	授業内容	名詞文の「-요」のタイプと漢語数詞
	学習成果	韓国語の会話体が理解でき、漢語数詞で数えることができる。
	予習復習の内容	本文を暗記し、漢語数詞を書きながら覚える。
9回	授業内容	名詞文の実践会話とその会話練習
	学習成果	韓国語の名詞文の実践会話ができる。
	予習復習の内容	実践会話を暗記し、その課題をする。
10回	授業内容	時間表現と「～から～まで」の文型
	学習成果	韓国語の時間表現ができ、「～から～まで」の応用会話ができる。
	予習復習の内容	韓国語の固有語数詞を覚え、時間を使った課題をする。
11回	授業内容	時間表現の実践会話とその会話練習
	学習成果	韓国語の時間表現の会話ができる。
	予習復習の内容	本文を覚え、その課題をする。
12回	授業内容	助詞「～が」の文と名詞文の否定形
	学習成果	主語「～が」を使った文とその否定形の会話ができる。
	予習復習の内容	韓国語の否定形の練習とその課題をする。
13回	授業内容	名詞文の否定形の実践会話とその会話練習
	学習成果	韓国語の否定形を使った実践会話ができる。
	予習復習の内容	本文を暗記し、その課題をする。
14回	授業内容	指示代名詞を使った疑問文とその受け答え
	学習成果	韓国語の指示代名詞を使った質問と答えができる。
	予習復習の内容	韓国語の指示代名詞を日本語と比較しながら理解し、その課題をする。
15回	授業内容	指示代名詞の疑問文の実践会話とその会話練習
	学習成果	韓国語の指示代名詞による会話ができる。
	予習復習の内容	本文を暗記し、まとめの課題をする。

科目名	体育理論				担当者	高 間 章						
区 分	選択	1	単位	授業回数	8	回	授業形態	講義	学年	1・2年	開講期	後期
				授業時間数	16	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィスアワーについては初回授業時に連絡する。授業に対する質問等は毎回授業の前後に教室にて受け付ける。											
専門的 学習成果	①	体育理論の様々な科学的知識を理解し、実践できる。										
	②	スポーツ活動・運動の合理的な実践方法や取り組み方など健康維持増進のための方法を実践できる。										
	③	一生涯充実した生活を送るための生活習慣の見直しと自分自身のライフスタイルの再構築を計画できる。										
	④	自分自身の健康管理のみならず、周囲の人々をサポートを提言できる。										
汎用的 学習成果	(1)	体育理論の科学的知識を理解し、健康に対する意識を高め社会生活にいかすことができる。										
	(2)	現代社会における運動の意義・役割を理解し、継続的に運動を導入する方法を検討することができる。										
	(3)	スポーツ活動・運動の合理的な実践方法を学び、より安全な取り組み方を理解する。										
授業概要	現代社会において私たちが良好な健康状態を保ち生活するためには、日常生活のなかで食事や睡眠、運動などのバランスに留意することが必要である。本授業においては、運動が心身に与える影響を理解し、さまざまな科学的・合理的知識を得ることで生涯にわたって「いかに長く健康を享受し、生き甲斐をつくり、豊かな老後を過ごすか」といった生活の質の向上と「健康寿命の延伸」につながる運動の導入方法について理解する。そして、生涯にわたって継続的に豊かなスポーツライフを送るために必要な各個人の資質を高めることをねらいとする。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	70	学習内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。								
		レポート	20	生活習慣の見直しと改善策を具体的な例を挙げ自分自身の意見を述べているかを観点に評価を行う。								
		平常点	10	積極的な授業態度・関心・意欲を評価する。								
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) 専門的学習成果①で評価する。 (2) 専門的学習成果②③で評価する。 (3) 専門的学習成果②③で評価する。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
	公益財団法人 日本体育協会		『公認スポーツ指導者養成テキスト』						社走狗			
	佐藤祐造 柴田英治		『テキスト健康科学』						南江堂			
	大学生の健康・スポーツ科学研究会		『大学生の健康・スポーツ科学』						道和書院			
財団法人 健康・体力づくり事業財団		『健康運動実践指導者テキスト』						南江堂				
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①授業は、配布される参考資料をもとに進めていくかたちとなるため授業の中で配布された資料をもとにした復習を積極的に行うこと。また、次回の授業内容とされる範囲を予告するので関係するものに対する予習し、理解を深めておくこと。(予習復習：4時間程度) ②單元ごとの課題をもとに評価・解説し、全体に対するフィードバックし振り返りの時間を設ける。筆記試験答案用紙は後期授業開校期に返却する。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス：スポーツの意義役割	本授業の振り返り（まとめ）：現代社会の変化
	学習成果	現代社会の変化の中でのスポーツ活動の意義・役割を理解する。	
	予習復習の内容	スポーツの意義・役割を自分自身の言葉で整理し、カテゴリーごとにわけてまとめる。	
2回	授業内容	身体活動と心身の健康	前回の授業の振り返り（復習となる練習問題）スポーツの意義・役割
	学習成果	運動が心身に与える影響を理解し、自分自身の生活習慣を見直す。	
	予習復習の内容	自分自身の生活習慣の見直し、具体的な例と改善策を挙げる。	
3回	授業内容	運動とトレーニング	前回の授業の振り返り（復習となる練習問題）：心身の健康管理
	学習成果	トレーニングの基本的なルールや効果的な進め方等運動実践に関する理解を深める。	
	予習復習の内容	自分自身が興味がある運動を探し、実際に取り組む手段を検討する。	
4回	授業内容	運動技能の習得と運動学習	前回の授業の振り返り（復習となる練習問題）：トレーニングの基礎的ルール、運動方法
	学習成果	運動の効果的な学習方法、学習過程を理解し、運動の楽しむ方法を考察する。	
	予習復習の内容	運動学習を理解し、効果的学習について具体的な例を挙げるができるようにする。	
5回	授業内容	運動とからだの発育発達	前回の授業の振り返り（復習となる練習問題）：運動の学習過程
	学習成果	運動と発育発達の関係について理解し、適切な運動の導入方法を理解する。	
	予習復習の内容	心身の発育発達に合わせた働きかけ、指導方法について考察する。	
6回	授業内容	運動と安全（1）（特殊環境下での活動、対策）	前回の授業の振り返り（復習となる練習問題）：発育発達に合わせた運動導入
	学習成果	暑熱環境下、寒冷下における運動の安全な取り組み方と予防、対策を理解する。	
	予習復習の内容	スポーツ環境、対象者に合わせた予防・対策について考察する。	
7回	授業内容	運動と安全（2）（スポーツ医学、応急処置）	前回の授業の振り返り（復習となる練習問題）：特殊環境下での対策
	学習成果	スポーツ現場で起きやすい内科的障害、外科的障害に対する応急処置を理解する。	
	予習復習の内容	対象者、スポーツ種目ごとの予防・対策について考察する。	
8回	授業内容	まとめ：生涯スポーツの在り方	前回の授業の振り返り（復習となる練習問題）：スポーツ医学 これまでの学習内容の中から確認としての総合的な筆記試験を実施する。配布資料をもとに復習をしておくこと。
	学習成果	現代社会の生涯スポーツに対する考え方を理解する。	
	予習復習の内容	自分自身に合わせた豊かなスポーツライフの設計の考察する。	
9回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
10回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
11回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
12回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
13回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
14回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
15回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		

科目名	健康スポーツ				担当者	タカマアキラ 高間 章						
区分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	実技	学年	1・2年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィスアワーについては初回授業時に連絡する。授業に対する質問等は毎回授業の前後に体育館アリーナにて受け付ける。											
専門的 学習成果	①	様々なスポーツを通しての技術・ルールを理解のみならず、人間としてのマナー・エチケットに対する考えを育む。										
	②	基本技術を習得し、試合を通してスポーツ活動を親しむための総合的な運動技能を高める。										
	③	生涯にわたって、スポーツ活動を楽しむための創意工夫を行い、より積極的な意欲・資質を高める。										
	④	様々なスポーツ活動を通して、仲間と協力してグループ活動を行い人間関係の向上を図る。										
	⑤	自己やチームの課題を見つけて解決しようとする前向きな態度を養う。										
汎用的 学習成果	(1)	各スポーツ種目のルール・技術、活動する際のマナーに対する理解を深める。										
	(2)	様々なスポーツ活動を通して、活動を親しむための総合的な運動技能を高め、生涯にわたって運動を親しむための土台づくりをする。										
	(3)	個人・集団での課題を達成することでスポーツ活動を通しての人間関係の向上を図る。										
	(4)	健康の維持増進のためのスポーツ活動の取り組みについて理解する。										
授業概要	本授業においては、健康づくりのためのスポーツ・身体活動の意義・役割について各種目ごとの特徴をふまえて解説し、実技を通して、実際にその素晴らしさを経験する。試合形式での活動の中では、学生同士協力することで楽しさや喜び、悔しさを共に味わい、生涯にわたって継続的にスポーツ活動を親しむ能力や意欲、資質を高め、良好な人間関係を築く方法を検討する。更にスポーツの基本的な技能、ルール、マナーを身に付けることでスポーツに対する理解を深め、様々な運動の魅力を知り、実践による心身の健康維持増進に努めるための創意工夫をするなど実践力を身に付けていく。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	30	設定されたテーマに沿ったレポート課題の提出（提出期限厳守）について評価する。								
		平常点	30	個人、集団での活動に対する取り組みの姿勢・態度、他者への働きかけ等授業効果の向上への貢献（リーダーシップ含む）、出席状況による評価とする。								
	技能・知識の 習得度	40	基礎的な技能向上に向けた積極的な態度、課題達成に対する積極的な態度、試合運営管理（審判活動）について評価する。									
	汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) 専門的学習成果①で評価する。 (2) 専門的学習成果①②③で評価する。 (3) 専門的学習成果④⑤で評価する。 (4) 専門的学習成果③④⑤で評価する。										
テキスト 等	著者・編集者名	書名						出版社名				
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名						出版社名				
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①気候・内容に合わせた服装・シューズ（体育館：インシューズ）を準備し、アクセサリ類ははさずして受講すること。活動中は、各種目のルールを理解し、仲間と協力し審判を含めた試合の管理運営を行いつつ、目標・課題に沿って積極的に参加すること。気象条件・人数に合わせた活動内容の変更等が生じる場合があることを理解したうえで参加すること。時間外学習としては、各種目のルールの確認、技能・体力の向上に努めた活動など行うこと。（予習復習：週1時間程度） ②各時間ごと課題に対するの振り返りを行い、次の活動に活かすことができるようにする。また、評価基準の1つであるレポート課題は提出期限を厳守すること。（最終回に添削後返却）											

授業計画		学習成果の評価	
1回	授業内容	ガイダンス：運動の準備（ウォーミングアップ・クーリングダウンの方法、グループ分け）	運動の進め方・方法の理解
	学習成果	授業の目的・進め方（活動内容と授業内の運動の進め方）を理解し、実施できる。	
	予習復習の内容	運動の方法・進め方を確認し、今後の活動のために日常生活の活動量を増やす努力をする。	
2回	授業内容	レクリエーション活動（コミュニケーションゲームと運動の準備）	運動に対する心身の準備（レクリエーション活動への取り組み）
	学習成果	レクリエーション活動を通して、スポーツ活動を安全に取り組むための心身の準備を整える。	
	予習復習の内容	レクリエーションスポーツの役割を意義・理解し、今後の活動のための心身の準備を整える時間をつくる。	
3回	授業内容	ニュースポーツ（インディアカ）(1) ルール確認・説明、基本技能の習得、簡易ゲーム	ニュースポーツ（インディアカ）の取り組み
	学習成果	ルールを理解し、基本的な技能を習得し、簡易ゲームを実施できる。	
	予習復習の内容	ニュースポーツ（インディアカ）とは何か理解を深め、ルール・基本技能の確認をし、試合形式での活動をするための準備を整える。	
4回	授業内容	ニュースポーツ（インディアカ）(2) 試合形式での実施	ニュースポーツ（インディアカ）の取り組み
	学習成果	チームの課題を設定し、審判を含めた活動を試合の中で実践・展開できる。	
	予習復習の内容	ルール・基本技能の確認をし、試合形式での活動をするための更なる準備を整える。	
5回	授業内容	ニュースポーツ（インディアカ）(3) 試合形式での実施	ニュースポーツ（インディアカ）の取り組み
	学習成果	グループを変え、新たなチームの課題を設定し、審判を含めた活動を試合の中で実践・展開できる。	
	予習復習の内容	新たなチーム編成の中でよりよいチームワークを形成し戦術等工夫をする。	
6回	授業内容	ニュースポーツ（ソフトバレーボール）(1) ルール確認・説明、基本技能の習得、簡易ゲーム	ソフトバレーボールの取り組み
	学習成果	ルールを理解し、基本的な技能を習得し、簡易ゲームを実施できる。	
	予習復習の内容	ソフトバレーボールのルール・基本技能の確認をし、試合形式での活動をするための準備を整える。	
7回	授業内容	ニュースポーツ（ソフトバレーボール）(1) 試合形式での実施	ソフトバレーボールの取り組み
	学習成果	チームの課題を設定し、審判を含めた活動を試合の中で実践・展開できる。	
	予習復習の内容	ソフトバレーボールの試合の中でよりよいチームワークを形成し戦術等工夫をする。	
8回	授業内容	球技（種目選択）(1) ルール確認・説明、基本技能の習得、簡易ゲーム	選択した球技種目の取り組み
	学習成果	選択した球技種目のルールを理解し、簡易ゲームを実施できる。	
	予習復習の内容	選択した球技活動のルール、基本技能の確認をし、試合形式での活動をするための準備を整える。	
9回	授業内容	球技（種目選択）(2) 試合形式での実施	選択した球技種目の取り組み
	学習成果	グループを変え、新たなチームの課題を設定し、審判を含めた活動を試合の中で実践・展開できる。	
	予習復習の内容	試合の中でよりよいチームワークを形成し戦術等工夫をする。	
10回	授業内容	バドミントン・卓球（1）2つの種目のルール確認・説明、基本技能の習得、簡易ゲーム	バドミントン・卓球の取り組み 「レポート課題」心身の準備自分自身が興味のあるスポーツ種目の歴史・ルール・特徴など調べてレポート提出する。（提出期限厳守）
	学習成果	2種目のルールを理解し、基本的な技能を習得し、それぞれの簡易ゲームを実施できる。	
	予習復習の内容	ルール・基本技能の確認をし、試合形式での活動をするための準備を整える。	
11回	授業内容	バドミントン・卓球（2）基本技能の練習、試合形式での実施	バドミントン・卓球の取り組み
	学習成果	試合の流れを理解し、審判を含めた活動を試合の中で実践・展開できる。	
	予習復習の内容	ルール・基本技能の確認をし、試合形式での活動をするための準備を整える。	
12回	授業内容	バドミントン・卓球（3）試合形式での実施	バドミントン・卓球の取り組み
	学習成果	仲間と協力して、審判を含めた活動を試合の中で実践・展開できる。	
	予習復習の内容	グループ分けの方法について検討し、試合を円滑に進めるための方法を検討する。	
13回	授業内容	バドミントン・卓球（4）試合形式での実施（グループごとに対戦相手を設定）	バドミントン・卓球の取り組み
	学習成果	仲間と協力して試合の運営管理、審判を含めた活動を試合の中で実践・展開できる。	
	予習復習の内容	試合の中でよりよいチームワークを形成し戦術等工夫をする。	
14回	授業内容	バドミントン・卓球（5）試合形式での実施（グループごとに対戦相手を設定）	バドミントン・卓球の取り組み
	学習成果	仲間と協力して試合の運営管理、審判を含めた活動を試合の中で実践・展開できる。	
	予習復習の内容	試合の中でよりよいチームワークを形成し戦術等工夫をする。	
15回	授業内容	バドミントン・卓球（6）試合形式での実施（グループごとに対戦相手を設定）	バドミントン・卓球の取り組み
	学習成果	各個人、チームごとに活動に対する総合的な振り返りをする。	
	予習復習の内容	試合の中でよりよいチームワークを形成し戦術等工夫をする。	

科目名	情報処理演習 I				担当者	ハリ 張 山 裕 江 ・ オオ 大 澤 栄 子						
区分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	前期
授業時間数	30 時間											
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業内容に関する質問等は毎回授業の前後に教室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	パソコンを使ってドキュメントを作成し、そのファイル管理を含め、実務レベルで使用できる。										
	②	ワープロソフトウェア（Microsoft Word）の基本操作を習得し、見やすいビジネス文書を作成できる。										
	③	ワープロソフトウェア（Microsoft Word）の応用操作を習得し、表現力・説得力のある文書を作成できる。										
汎用的 学習成果	(1)	パソコンの基本操作から実務レベルで使用するための学習を通して、社会的・職業的自立に必要な知識や技術を習得し活用できる。（専門的学習成果①②③④に関連）										
	(2)	パソコンを使ったドキュメントの作成において、情報を的確に伝える工夫をすることを通して、自己表現、他者理解ができる。（専門的学習成果④に関連）										
	(3)	説得力のあるドキュメントを作成するために、自ら課題を見出し、その解決に向けて習得した専門的知識や技能を活用することができる。（専門的学習成果①②③に関連）										
授業概要	<p>本授業は、パソコンを使用するために必要となる基礎的な知識や技術の習得を目的とした演習を行う。</p> <p>さらに、パソコンのスキルをビジネスの現場を意識した実践レベルに高めることを目的とした演習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワープロソフト（Microsoft Word）の基本操作を学習しながら、ビジネス文書に関する基礎知識や、ファイル管理の方法について学ぶ。 ・画像や図形等が挿入されたグラフィカルなドキュメント作成、長文レポートの作成を通し、適切で効果的な情報の表現方法を学ぶ。 											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（％）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		試験	50	全15回の授業内容に基づき、理解が定着し正しく操作できているかの確認試験を行う。提出されたデータの内容により評価する。								
		課題	40	4回実施し、各回10%を配点する。单元ごとの理解が定着し、正しく操作できているか、提出されたデータの内容により評価する。								
	平常点	10	授業への取り組み・意欲・態度により評価する。									
	汎用的 学習成果	汎用的学習成果については、以下のとおり専門的学習成果により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①～④で評価を行う。 (2) は専門的学習成果④で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①～③で評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	杉本くみ子／大澤栄子	『30時間アカデミック Office 2024』				実教出版						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①積み重ねの授業となるため、次の授業までに内容を自ら補習しておくこと。单元ごとに課題を課し、その内容を評価の対象とするので、復習（授業の振り返り・例題の完遂）をしっかりと行うこと（週1時間程度）。 ②提出課題は、速やかに評価した後、返却するとともに解説を行う。 各自保存媒体を準備し、補習・復習に活用することが望ましい。											

授業計画		学習成果の評価
1回	授業内容	基本操作①／ビジネス文書の基礎知識／入力、編集、保存
	学習成果	ビジネス文書の基本的な形式や文章表現を理解し、文章の入力・編集及びデータ保存の操作ができる。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、文字の入力・変換及びデータの保存を含むファイル管理操作を確認する。
2回	授業内容	基本操作②／配置、文字書式、段落書式、ページ設定と印刷
	学習成果	文字や段落に対する書式設定ができ、基本的なビジネス文書を作成して印刷することができる。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、文字や段落の書式設定や、印刷の操作を確認する。
3回	授業内容	(復習) 課題作成
	学習成果	第1回～第2回までの授業内容をふまえた演習問題を作成することができる。
	予習復習の内容	ビジネス文書作成における基本操作を確認する。未完成の状態課題を提出した場合は、次回までに完遂しておくこと。
4回	授業内容	表やリストの利活用／表挿入、レイアウト変更、セルの結合と分割、書式設定
	学習成果	情報の表現としての表やリストの特徴を理解し、自在に編集ができる。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、表やリストの効率的な編集操作を確認する。
5回	授業内容	文書の編集①／ダイアログボックスを活用した様々な書式設定
	学習成果	ダイアログボックスを用いて複数の書式設定ができる。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、複数の書式を効率的に設定する操作を確認する。
6回	授業内容	文書の編集②／レイアウトの変更(改ページ、段組み、段区切り)、スタイルの活用、ページ番号
	学習成果	ページ区切りや段組みの設定を変更し、文書のレイアウトを変更できる。スタイルを活用した効率的な書式設定が行える。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、文書内のレイアウトを変更したり、繰り返される書式を効率よく設定する操作を確認する。
7回	授業内容	(復習) 課題作成
	学習成果	第4回～第6回までの授業内容をふまえた演習問題を作成することができる。
	予習復習の内容	文書の編集方法について確認する。未完成の状態課題を提出した場合は、次回までに完遂しておくこと。
8回	授業内容	グラフィック要素の利活用①／ストック画像、図、ワードアート、図形
	学習成果	各グラフィック要素の特徴を理解し、訴求力のある文書作成ができる。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、各グラフィック要素について挿入、編集する操作を確認する。
9回	授業内容	グラフィック要素の利活用②／数式の挿入と作成、ページ罫線
	学習成果	数式ツールを利用して文書内に数式を入力することができる。ページ罫線を設定し、表現力のある文書作成ができる。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、数式の挿入やページ罫線を設定する操作を確認する。
10回	授業内容	(復習) 課題作成
	学習成果	第8回～第9回までの授業内容をふまえた演習問題を作成することができる。
	予習復習の内容	グラフィック要素を効果的に活用する方法について確認する。
11回	授業内容	長文機能①／スタイルの活用、アウトライン機能
	学習成果	見出しスタイルを設定し、文書の構成(アウトライン)を管理することができる。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、効率的な長文作成に関する各種機能と操作を確認する。
12回	授業内容	長文機能②／ヘッダー・フッター、目次、置換、文章校正
	学習成果	ヘッダー・フッターや目次を作成したり、文章校正機能を活用することで、長文を効率的に作成できる。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、効率的な長文作成に関する各種機能と操作を確認する。
13回	授業内容	他アプリケーションデータの活用／ExcelデータのWord文書への利用
	学習成果	他アプリケーションとの間でのデータ共有を理解し、作成した文書に適切な処置ができる。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、他アプリケーションとのデータ共有に関する知識と操作を確認する。
14回	授業内容	(復習) 課題作成
	学習成果	第11回～第13回までの授業内容をふまえた演習問題を作成することができる。
	予習復習の内容	長文を効率よく作成する操作を確認する。他アプリケーションのデータをWord文書で利用する操作を確認する。
15回	授業内容	まとめ
	学習成果	基本的なビジネス文書や、表・グラフィック要素が挿入された文書を作成することができる。文書のレイアウト変更、長文作成等、応用的にWordを利用することができる。
	予習復習の内容	この授業の内容全般について、整理、確認する。

演習への取り組み
第3回目に課題作成(ビジネス文書作成の基本操作について)

演習への取り組み
第7回目に課題作成(表やリスト、スタイルの活用、レイアウト変更など文書の編集方法について)

演習への取り組み
第10回目に課題作成(グラフィック要素を活用した文書作成について)

演習への取り組み
第14回目に課題作成(長文作成機能と他アプリケーションのデータ利用について)

確認試験
全15回の学習内容について理解し、正しく操作できるかを問う。第15回の授業内にて実施。

科目名	情報処理演習Ⅱ				担当者	ハリ 張 山 裕 江 ・ オオ 大 澤 栄 子						
区 分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業 形態	演習	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業内容に関する質問等は毎回授業の前後に教室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	パソコンを使って表やグラフを作成し、そのデータ管理を含め、実務レベルで使用できる。										
	②	表計算ソフトウェア（Microsoft Excel）の基本操作を習得し、表やグラフを効率的に作成できる。										
	③	表計算ソフトウェア（Microsoft Excel）の応用操作を習得し、的確なデータ収集・集計・分析ができる。										
汎用的 学習成果	(1)	パソコンの基本操作から実務レベルで使用するための学習を通して、社会的・職業的自立に必要な知識や技術を習得し活用できる。（専門的学習成果①②③④に関連）										
	(2)	パソコン（表計算ソフト）を使った表やグラフの作成において、情報を的確に伝える工夫をすることを通して、自己表現、他者理解ができる。（専門的学習成果④に関連）										
	(3)	説得力のある表・グラフの作成やデータ分析において、自ら課題を見出し、その解決に向けて習得した専門的知識や技能を活用することができる。（専門的学習成果①②③に関連）										
授業概要		<p>本授業は、パソコンを使用するために必要となる基礎的な知識や技術の習得を目的とした演習を行う。</p> <p>さらに、パソコンのスキルをビジネスの現場を意識した実践レベルに高めることを目的とした演習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表計算ソフト（Microsoft Excel）の基本操作を学習しながら、表やグラフの作成、関数を使用した様々な計算方法や処理について学ぶ。 ・データベース機能やピボットテーブルによる的確なデータ収集や分析、マクロによる操作の自動化といった実践的な手法を学ぶ。 										
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（％）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		試験	50	全15回の授業内容に基づき、理解が定着し正しく操作できているかの確認試験を行う。提出されたデータの内容により評価する。								
		課題	40	4回実施し、各回10%を配点する。单元ごとの理解が定着し、正しく操作できているか、提出されたデータの内容により評価する。								
		平常点	10	授業への取り組み・意欲・態度により評価する。								
汎用的 学習成果	<p>汎用的学習成果については、以下のとおり専門的学習成果により評価を行う。</p> <p>(1) は専門的学習成果①～③で評価を行う。</p> <p>(2) は専門的学習成果②及び③で評価を行う。</p> <p>(3) は専門的学習成果①～③で評価を行う。</p>											
テキスト 等	著者・編集者名		書名					出版社名				
	杉本くみ子／大澤栄子		『30時間アカデミック Office 2024』					実教出版				
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名					出版社名				
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		<p>①積み重ねの授業となるため、次の授業までに内容を自ら補習しておくこと。单元ごとに課題を課し、その内容を評価の対象とするので、復習（授業の振り返り・例題の完遂）をしっかりと行うこと（週1時間程度）。</p> <p>②提出課題は、速やかに評価した後、返却するとともに解説を行う。各自保存媒体を準備し、補習・復習に活用することが望ましい。</p>										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	基本操作①／ブックの操作、データ入力、数式入力、データ編集、保存	演習への取り組み 第4回目に課題作成（表作成の基本操作について）
	学習成果	Excelのブックの構成を理解する。ワークシートにデータを入力し、数式を用いて計算することができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、ワークシート上でのデータ入力、計算式の入力について確認する。	
2回	授業内容	表の作成①／関数の入力、書式設定	
	学習成果	基本的な関数を使って計算を行い、書式設定の機能を利用して表を整えることができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、関数の入力やセル書式の設定についてを確認する。	
3回	授業内容	表の作成②／列や行の設定、列や行の挿入と削除、シートの操作	
	学習成果	表のレイアウトを自在に編集できる。ワークシートのコピーや、シート名の変更ができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、表のレイアウトを自在に編集したり、ワークシートの操作を確認する。	
4回	授業内容	(復習) 課題作成	
	学習成果	第1回～第3回までの授業内容をふまえた演習問題を作成することができる。	
	予習復習の内容	表作成における基本操作を確認する。未完成の状態課題を提出した場合は、次回までに完遂しておくこと。	
5回	授業内容	表の印刷、セル参照、基本の関数	演習への取り組み 第8回目に課題作成（セル参照、知っておきたい関数について）
	学習成果	表を印刷するための設定を理解し、適切に印刷を行うことができる。セルの相対参照と絶対参照を使い分けることができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、表を印刷する際の設定について確認する。セルの相対参照と絶対参照の違いについて確認する。	
6回	授業内容	関数①（順位、条件、検索）	
	学習成果	関数を使って順位を求めたり、条件判断に基づいた処理を行うことができる。別表を参照する関数を使って、検索結果を表示することができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、関数（順位を求め、条件で処理分岐する、別表を検索する）の使い方を確認する。	
7回	授業内容	関数②（端数処理、エラー回避、文字列操作、日付）	
	学習成果	関数を使って端数処理をしたり、演算結果がエラーとなった場合の回避処理ができる。文字列を対象にした関数を使って、データを加工することができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、関数（端数処理、エラー回避、文字列操作）の使い方を確認する。	
8回	授業内容	(復習) 課題作成	
	学習成果	第5回～第7回までの授業内容をふまえた演習問題を作成することができる。	
	予習復習の内容	関数の使い方について確認する。未完成の状態課題を提出した場合は、次回までに完遂しておくこと。	
9回	授業内容	グラフと図形	演習への取り組み 第10回目に課題作成（グラフや図形の作成について）
	学習成果	表のデータをもとに棒グラフや円グラフを作成し、書式設定を行うことができる。図形を作成し、適切に配置できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、表の数値情報を意図に適したグラフで表現する方法について確認する。	
10回	授業内容	(復習) 課題作成	
	学習成果	第9回の授業内容をふまえた演習問題を作成することができる。	
	予習復習の内容	意図を反映した効果的なグラフを作成する操作を確認する。未完成の状態課題を提出した場合は、次回までに完遂しておくこと。	
11回	授業内容	データベース	演習への取り組み 第14回目に課題作成（データベース機能、ピボットテーブル、マクロについて）
	学習成果	データベースの機能について理解し、並べ替えやフィルターを行い大量のデータを効率よく管理・運用できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、並べ替えやフィルターの操作を確認する。	
12回	授業内容	ピボットテーブル	
	学習成果	ピボットテーブルで大量のデータをクロス集計できる。元データ修正に伴うデータの更新ができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、ピボットテーブルを使ったデータの集計・分析方法について確認する。	
13回	授業内容	操作の自動化	
	学習成果	マクロの機能を用いて繰り返しの操作を自動化し、作業を効率化できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、作業を自動化する機能と操作について確認する。	
14回	授業内容	(復習) 課題作成	
	学習成果	第11回～第13回までの授業内容をふまえた演習問題を作成することができる。	
	予習復習の内容	データベース機能、ピボットテーブルでのデータ集計と分析について確認する。未完成の状態課題を提出した場合は、次回までに完遂しておくこと。	
15回	授業内容	まとめ	確認試験 全15回の学習内容について理解し、正しく操作できるかを問う。第15回の授業内にて実施。
	学習成果	基本的な計算と関数を利用した表やグラフを作成することができる。データベース機能や、操作を自動化する等、応用的にExcelを利用することができる。	
	予習復習の内容	この授業の内容全般について、整理、確認する。	

科目名	海外文化研修				担当者	川 辺 博 ・ 中 島 恵						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業 形態	演習	学年	1・2年	開講期	後期集中
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業前後に教室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	海外（渡航先）の文化や歴史について、探求心を持って調査することができる。										
	②	事前に調査・計画した研修内容を現地での行動を通して実践できる。										
	③	日常会話程度の語学力を習得して現地で活用できる。										
	④	海外での研修活動に際し、自己管理と危機管理を意識し行動することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	基礎的な会話スキルを身につけ、研修地で実践できる。（専門的学習成果①②③④に連動）										
	(2)	多文化に対応できる総合的な判断力とコミュニケーション能力を有し、主体的に交流・行動することができる。（専門的学習成果③④に連動）										
	(3)	国際社会での貢献をめざして、自己啓発を続け、グローバルな観点で協働することができる。（専門的学習成果②③に連動）										
授業概要	海外にて3～5日間程度の研修を行い、現地の経済・文化・歴史について学ぶ。また、状況に応じては国際交流活動やボランティア活動にも取り組んでみたい。 授業は集中講義で行い、海外研修をするにあたり、事前学習として現地の調査、旅券申請手続き、語学学習などを行い研修に必要な知識と教養を身につける。研修旅行終了後は報告書を提出する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	30	研修旅行終了後にレポート提出する。								
		平常点	20	事前学習での取り組み、意欲、理解度により評価する。								
		研修	50	研修旅行期間中の取り組み、意欲により評価する。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習評価①～④で評価を行う。 (2) は専門的学習評価③④で評価を行う。 (3) は専門的学習評価②③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①1・2年共に受講できる。訪問国など、具体的な計画は新年度開講期に伝える。 研修参加費用として約20万円を予定している。 事前学習として訪問国についての情報を収集しておくこと（予習：週2時間程度）。授業後は学習内容を振り返り、課題や疑問点について調べ、理解を深める（復習：週2時間程度）。 ②レポートや課題については、添削し返却する。 ③受講者が20名に満たない場合は中止とする。また、外務省により安全への注意が促された場合にも、実施を見送る。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス 概要説明	授業において受講学生にシラバスの内容を質問をし、理解度を評価する。
	学習成果	授業内容を理解し、研修の意義と目的を理解して説明できる。	
	予習復習の内容	事前学習としてシラバスを読み、内容を理解する。	
2回	授業内容	申請等の手続き、スケジュールの説明	各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。
	学習成果	旅券の申請を各自行える。研修旅行日程を理解して行動計画を立案できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
3回	授業内容	申請等の手続き、専門研修やフィールドワーク	各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。
	学習成果	自主研修と専門研修の内容を理解して説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
4回	授業内容	異国の文化 ①歴史と発展	各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。
	学習成果	渡航先の歴史とその発展を理解して説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
5回	授業内容	異国の文化 ②現代と経済	各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。
	学習成果	渡航先の現状と経済について理解して説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
6回	授業内容	専門研修の概要	各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。
	学習成果	専門研修の内容を理解して選択できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
7回	授業内容	専門研修の準備 語学学習	各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。
	学習成果	研修先の言語を学習して専門研修で活用できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
8回	授業内容	最終案内・確認	各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。
	学習成果	海外に渡航するにあたり自己管理と危機管理を実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
9回	授業内容	研修 第1日目	海外での研修期間中は研修への取り組みを評価する。
	学習成果	計画されている研修内容を実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
10回	授業内容	研修 第2日目	海外での研修期間中は研修への取り組みを評価する。
	学習成果	計画されている研修内容を実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
11回	授業内容	研修 第3日目	海外での研修期間中は研修への取り組みを評価する。
	学習成果	計画されている研修内容を実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
12回	授業内容	研修 第4日目	海外での研修期間中は研修への取り組みを評価する。
	学習成果	計画されている研修内容を実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
13回	授業内容	研修 第5日目	海外での研修期間中は研修への取り組みを評価する。
	学習成果	計画されている研修内容を実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
14回	授業内容	研修報告書の作成	海外での研修内容をまとめレポート課題として提出する。
	学習成果	研修内容を振り返ることができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
15回	授業内容	研修報告	海外での研修内容をまとめレポート課題として提出する。
	学習成果	研修内容について発表できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	

科目名	暮らしの中の憲法				担当者	ミヅモリ トシマサ 三 森 敏 正						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業 形態	講義	学年	1・2年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		教務課を通して連絡										
専門的 学習成果	①	国家と憲法の間を関係し、説明することができる。										
	②	憲法の意味を理解し、論じることができる。										
	③	立憲主義について理解し、説明することができる。										
	④	幸福追求権・法の下での平等について理解し、説明することができる。										
	⑤	新しい人権について理解し、論じることができる。										
	⑥	自由権・社会論を理解し、論じることができる。										
	⑦	基本的人権と統治論の間を関係し、論じることができる。										
汎用的 学習成果	(1)	憲法の意義を理解し、基本的人権に配慮した社会生活を送ることができる。(専門的学習成果の①～⑦に関連)										
	(2)	新たな問題に関して、基本的人権の観点から対処できる。(専門的学習成果の④に関連)										
	(3)	自由権、社会権を理解し、状況に応じて国家、地方自治体への要請などができる。(専門的学習成果の⑥⑦に関連)										
	(4)	人として生きる意味を理解し、社会生活にいかすことができる。(専門的学習成果の①～⑦に関連)										
授業概要	日本国憲法を取り巻く状況は、今世紀に入ってから急激に変化している。そのため、未来志向の議論をすすめることは大切である。本講義においては、他の法律との関係も重視しながら、教育の現場で働くことの注意点についても解説していきたい。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	80	これまでの学習内容に基づき、評価を行う。								
		レポート	10	Rシートについて評価を行う。								
		平常点	10	積極的に授業へ取り組む意欲や態度について評価する。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～⑦で評価を行う。 (2) は専門的学習成果④で評価を行う。 (3) は専門的学習成果⑥⑦で評価を行う。 (4) は専門的学習成果①～⑦で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
	棟居 快行・松井 茂記 他編		『基本的人権の事件簿 憲法の世界へ 第6版』						有斐閣			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
	山下・宇賀 代表		『ポケット六法 令和3年版』						有斐閣			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等			①教科書・六法は必ず持参すること。授業中の態度も評価する。 ②ノートは必ず取ることが大切である。									

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	立憲主義	毎回理解度と質問等を記載するRシートを配布・回収する
	学習成果	立憲主義を理解する。	
	予習復習の内容	立憲主義を理解する。	
2回	授業内容	日本国憲法の成立	
	学習成果	日本国憲法の成立過程を理解する。	
	予習復習の内容	日本国憲法の成立過程を理解する。	
3回	授業内容	日本国憲法の基本原理	
	学習成果	日本国憲法の基本原理を理解する。	
	予習復習の内容	日本国憲法の基本原理を理解する。	
4回	授業内容	個人主義、私人間効力、幸福追求権	
	学習成果	個人主義、私人間効力、幸福追求権を理解する。	
	予習復習の内容	個人主義、私人間効力、幸福追求権を理解する。	
5回	授業内容	新しい人権、自己決定権	
	学習成果	新しい人権、自己決定権を理解する。	
	予習復習の内容	新しい人権、自己決定権を理解する。	
6回	授業内容	治療拒否と自己決定権	
	学習成果	治療拒否と憲法との関係を理解する。	
	予習復習の内容	判例を分析する。	
7回	授業内容	夫婦別姓と自己決定権	
	学習成果	夫婦別姓と憲法との関係を理解する。	
	予習復習の内容	判例を分析する。	
8回	授業内容	プライバシー権	
	学習成果	プライバシー権と憲法との関係を理解する。	
	予習復習の内容	プライバシー権と憲法との関係を理解する。	
9回	授業内容	法の下での平等	
	学習成果	法の下での平等を理解する。	
	予習復習の内容	判例を分析する。	
10回	授業内容	精神的自由、思想・良心の自由	
	学習成果	精神的自由、思想・良心の自由を理解する。	
	予習復習の内容	判例を分析する。	
11回	授業内容	信教の自由、学問の自由	
	学習成果	信教の自由と学問の自由を理解する。	
	予習復習の内容	信教の自由と学問の自由を理解する。	
12回	授業内容	表現の自由	
	学習成果	表現の自由を理解する。	
	予習復習の内容	表現の自由を理解する。	
13回	授業内容	経済的自由権	
	学習成果	経済的自由権を理解する。	
	予習復習の内容	経済的自由権を理解する。	
14回	授業内容	人身の自由	
	学習成果	人身の自由を理解する。	
	予習復習の内容	人身の自由を理解する。	
15回	授業内容	社会権	
	学習成果	社会権を理解する。	
	予習復習の内容	社会権を理解する。	

科目名	経済のしくみ				担当者	モト 吉 祥 子						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業 形態	講義	学年	1・2年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業前後に教室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	政府が行っている各種経済政策について説明できる。										
	②	消費者と生産者の行動原理について説明できる。										
	③	市場における価格決定について説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	経済のしくみを理解し、社会生活に活かすことができる（専門的学習成果①②③に関連）										
	(2)	経済的諸問題について判断力を有し主体的行動をとることができる（専門的学習成果①②③に関連）										
授業概要	私たちの生活は社会経済活動と密接に結びついており、その点に関して経済学は大切な学問の一分野と言えるが、苦手意識を持っている人が多い。この授業は特に社会経済を理解する上で基本的かつ重要な科目である「マクロ経済学」、「ミクロ経済学」を取り扱う。政府の役割や個人・企業の行動原理、市場の仕組みについて、その基本理論を理解し、私たちの生活との関連性について考える。経済学は専門用語が多く、難解であるが、各種経済問題について解決力・思考力を養えるように基本的な部分の内容を講義する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		小テスト	70	毎回簡単な小テスト（範囲は前回授業分）を行い評価する。								
		平常点	30	授業の態度・関心を評価する。								
汎用的 学習成果	(1)は専門的学習成果①②③で評価を行う。 (2)は専門的学習成果①②③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名							出版社名			
	石川秀樹	『みんな欲しかった！公務員 合格へのはじめの一步 経済科目』							TAC 出版			
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名							出版社名			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①事前にテキストに目を通し、授業で取り扱う内容がどのようなものか把握しておく（予習：週1時間程度）。授業後はわからない部分を明確にし、テキストに再度目を通す（復習：週1時間程度）。日頃より新・テレビ・ネットなどで経済についての情報に関心を持つようにする（30時間）。 ②小テストについては、毎回テスト後に解説付き解答を配布する。										

授業計画		学習成果の評価	
1回	授業内容	オリエンテーション①（経済学の思考方法について）	授業の態度・関心を評価
	学習成果	経済の理論モデルについて説明できる。	
	予習復習の内容	経済の分析方法について理解を深める。	
2回	授業内容	オリエンテーション②（古典派とケインズ派の違いについて）	授業の態度・関心を評価
	学習成果	古典派とケインズ派の市場の捉え方の違いについて説明できる。	
	予習復習の内容	世界経済が大恐慌に対してそのように対応したのか理解を深める。	
3回	授業内容	マクロ経済学①（GDPと物価）	出席・小テストで評価
	学習成果	GDPを始めとした国民経済計算概念について説明できる。	
	予習復習の内容	GDPという指標概念の限界について考えてみる。	
4回	授業内容	マクロ経済学②（財市場分析）	出席・小テストで評価
	学習成果	インフレギャップ、デフレギャップについて説明できる。	
	予習復習の内容	ギャップの解消方法について理解を深める。	
5回	授業内容	マクロ経済学③（乗数）	出席・小テストで評価
	学習成果	乗数効果について説明できる。	
	予習復習の内容	なぜ乗数が重要な概念なのか考えてみる。	
6回	授業内容	マクロ経済学④（貨幣市場分析）	出席・小テストで評価
	学習成果	貨幣供給のしくみについて説明できる。	
	予習復習の内容	ケインズの流動性理論について理解を深める。	
7回	授業内容	マクロ経済学⑤（金融政策とその効果）	出席・小テストで評価
	学習成果	具体的に実施されている金融政策について説明できる。	
	予習復習の内容	金融政策が無効となるケースについて理解を深める。	
8回	授業内容	マクロ経済学⑥（財政政策とその効果）	出席・小テストで評価
	学習成果	具体的に実施されている財政政策について説明できる。	
	予習復習の内容	財政政策が無効となるケースについて理解を深める。	
9回	授業内容	ミクロ経済学①（需要曲線）	出席・小テストで評価
	学習成果	消費者の効用最大化行動について説明できる。	
	予習復習の内容	代替効果、所得効果について理解を深める。	
10回	授業内容	ミクロ経済学②（供給曲線）	出席・小テストで評価
	学習成果	企業の利潤最大化行動について説明できる。	
	予習復習の内容	企業がどのように生産量を決定するのか理解を深める。	
11回	授業内容	ミクロ経済学③（市場理論）	出席・小テストで評価
	学習成果	価格がどのように決定されるのか説明できる。	
	予習復習の内容	ワルラス調整過程とマーシャル調整過程について理解を深める。	
12回	授業内容	ミクロ経済学④（余剰分析）	出席・小テストで評価
	学習成果	パレート最適について説明できる。	
	予習復習の内容	効率性と公平性の違いについて考えてみる。	
13回	授業内容	ミクロ経済学⑤（不完全競争理論）	出席・小テストで評価
	学習成果	完全競争市場と不完全競争市場の違いについて説明できる。	
	予習復習の内容	不完全競争市場（独占・寡占）の弊害について考えてみる。	
14回	授業内容	ミクロ経済学⑥（外部経済）	出席・小テストで評価
	学習成果	市場の失敗について説明できる。	
	予習復習の内容	外部不経済の内部化について理解を深める。	
15回	授業内容	ミクロ経済学⑦（公共財）	出席・小テストで評価
	学習成果	公共財の非競合性・非排他性について説明できる。	
	予習復習の内容	リンダールの解法について理解を深める。	

科目名	体育理論				担当者	高 間 章						
区 分	選択	1	単位	授業回数	8	回	授業形態	講義	学年	1・2年	開講期	後期
				授業時間数	16	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィスアワーについては初回授業時に連絡する。授業に対する質問等は毎回授業の前後に教室にて受け付ける。											
専門的 学習成果	①	体育理論の様々な科学的知識を理解し、実践できる。										
	②	スポーツ活動・運動の合理的な実践方法や取り組み方など健康維持増進のための方法を実践できる。										
	③	一生涯充実した生活を送るための生活習慣の見直しと自分自身のライフスタイルの再構築を計画できる。										
	④	自分自身の健康管理のみならず、周囲の人々をサポートを提言できる。										
汎用的 学習成果	(1)	体育理論の科学的知識を理解し、健康に対する意識を高め社会生活にいかすことができる。										
	(2)	現代社会における運動の意義・役割を理解し、継続的に運動を導入する方法を検討することができる。										
	(3)	スポーツ活動・運動の合理的な実践方法を学び、より安全な取り組み方を理解する。										
授業概要	現代社会において私たちが良好な健康状態を保ち生活するためには、日常生活のなかで食事や睡眠、運動などのバランスに留意することが必要である。本授業においては、運動が心身に与える影響を理解し、さまざまな科学的・合理的知識を得ることで生涯にわたって「いかに長く健康を享受し、生き甲斐をつくり、豊かな老後を過ごすか」といった生活の質の向上と「健康寿命の延伸」につながる運動の導入方法について理解する。そして、生涯にわたって継続的に豊かなスポーツライフを送るために必要な各個人の資質を高めることをねらいとする。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	70	学習内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。								
		レポート	20	生活習慣の見直しと改善策を具体的な例を挙げ自分自身の意見を述べているかを観点に評価を行う。								
		平常点	10	積極的な授業態度・関心・意欲を評価する。								
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) 専門的学習成果①で評価する。 (2) 専門的学習成果②③で評価する。 (3) 専門的学習成果②③で評価する。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名					出版社名					
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名					出版社名					
	公益財団法人 日本体育協会	『公認スポーツ指導者養成テキスト』					社走狗					
	佐藤祐造 柴田英治	『テキスト健康科学』					南江堂					
	大学生の健康・スポーツ科学研究会	『大学生の健康・スポーツ科学』					道和書院					
	財団法人 健康・体力づくり事業財団	『健康運動実践指導者テキスト』					南江堂					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①授業は、配布される参考資料をもとに進めていくかたちとなるため授業の中で配布された資料をもとにした復習を積極的に行うこと。また、次回の授業内容とされる範囲を予告するので関係するものに対する予習し、理解を深めておくこと。(予習復習：4時間程度) ②單元ごとの課題をもとに評価・解説し、全体に対するフィードバックし振り返りの時間を設ける。筆記試験答案用紙は後期授業開校期に返却する。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス：スポーツの意義役割	本授業の振り返り（まとめ）：現代社会の変化
	学習成果	現代社会の変化の中でのスポーツ活動の意義・役割を理解する。	
	予習復習の内容	スポーツの意義・役割を自分自身の言葉で整理し、カテゴリーごとにわけてまとめる。	
2回	授業内容	身体活動と心身の健康	前回の授業の振り返り（復習となる練習問題） スポーツの意義・役割
	学習成果	運動が心身に与える影響を理解し、自分自身の生活習慣を見直す。	
	予習復習の内容	自分自身の生活習慣の見直し、具体的な例と改善策を挙げる。	
3回	授業内容	運動とトレーニング	前回の授業の振り返り（復習となる練習問題）：心身の健康管理
	学習成果	トレーニングの基本的なルールや効果的な進め方等運動実践に関する理解を深める。	
	予習復習の内容	自分自身が興味がある運動を探し、実際に取り組む手段を検討する。	
4回	授業内容	運動技能の習得と運動学習	前回の授業の振り返り（復習となる練習問題）：トレーニングの基礎的ルール、運動方法
	学習成果	運動の効果的な学習方法、学習過程を理解し、運動の楽しむ方法を考察する。	
	予習復習の内容	運動学習を理解し、効果的学習について具体的な例を挙げるができるようにする。	
5回	授業内容	運動とからだの発育発達	前回の授業の振り返り（復習となる練習問題）：運動の学習過程
	学習成果	運動と発育発達の関係について理解し、適切な運動の導入方法を理解する。	
	予習復習の内容	心身の発育発達に合わせた働きかけ、指導方法について考察する。	
6回	授業内容	運動と安全（1）（特殊環境下での活動、対策）	前回の授業の振り返り（復習となる練習問題）：発育発達に合わせた運動導入
	学習成果	暑熱環境下、寒冷下における運動の安全な取り組み方と予防、対策を理解する。	
	予習復習の内容	スポーツ環境、対象者に合わせた予防・対策について考察する。	
7回	授業内容	運動と安全（2）（スポーツ医学、応急処置）	前回の授業の振り返り（復習となる練習問題）：特殊環境下での対策
	学習成果	スポーツ現場で起きやすい内科的障害、外科的障害に対する応急処置を理解する。	
	予習復習の内容	対象者、スポーツ種目ごとの予防・対策について考察する。	
8回	授業内容	まとめ：生涯スポーツの在り方	前回の授業の振り返り（復習となる練習問題）：スポーツ医学 これまでの学習内容の中から確認としての総合的な筆記試験を実施する。配布資料をもとに復習をしておくこと。
	学習成果	現代社会の生涯スポーツに対する考え方を理解する。	
	予習復習の内容	自分自身に合わせた豊かなスポーツライフの設計の考察する。	
9回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
10回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
11回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
12回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
13回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
14回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
15回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		

科目名	健康スポーツ				担当者	タカマアキラ 高 間 章						
区 分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	実技	学年	1・2年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィスアワーについては初回授業時に連絡する。授業に対する質問等は毎回授業の前後に体育館アリーナにて受け付ける。											
専門的 学習成果	①	様々なスポーツを通しての技術・ルールを理解のみならず、人間としてのマナー・エチケットに対する考えを育む。										
	②	基本技術を習得し、試合を通してスポーツ活動を親しむための総合的な運動技能を高める。										
	③	生涯にわたって、スポーツ活動を楽しむための創意工夫を行い、より積極的な意欲・資質を高める。										
	④	様々なスポーツ活動を通して、仲間と協力してグループ活動を行い人間関係の向上を図る。										
	⑤	自己やチームの課題を見つけて解決しようとする前向きな態度を養う。										
汎用的 学習成果	(1)	各スポーツ種目のルール・技術、活動する際のマナーに対する理解を深める。										
	(2)	様々なスポーツ活動を通して、活動を親しむための総合的な運動技能を高め、生涯にわたって運動を親しむための土台づくりをする。										
	(3)	個人・集団での課題を達成することでスポーツ活動を通しての人間関係の向上を図る。										
	(4)	健康の維持増進のためのスポーツ活動の取り組みについて理解する。										
授業概要	本授業においては、健康づくりのためのスポーツ・身体活動の意義・役割について各種目ごとの特徴をふまえて解説し、実技を通して、実際にその素晴らしさを経験する。試合形式での活動の中では、学生同士協力することで楽しさや喜び、悔しさを共に味わい、生涯にわたって継続的にスポーツ活動を親しむ能力や意欲、資質を高め、良好な人間関係を築く方法を検討する。更にスポーツの基本的な技能、ルール、マナーを身に付けることでスポーツに対する理解を深め、様々な運動の魅力を知り、実践による心身の健康維持増進に努めるための創意工夫をするなど実践力を身に付けていく。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	30	設定されたテーマに沿ったレポート課題の提出（提出期限厳守）について評価する。								
		平常点	30	個人、集団での活動に対する取り組みの姿勢・態度、他者への働きかけ等授業効果の向上への貢献（リーダーシップ含む）、出席状況による評価とする。								
	技能・知識の 習得度	40	基礎的な技能向上に向けた積極的な態度、課題達成に対する積極的な態度、試合運営管理（審判活動）について評価する。									
	汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) 専門的学習成果①で評価する。 (2) 専門的学習成果①②③で評価する。 (3) 専門的学習成果④⑤で評価する。 (4) 専門的学習成果③④⑤で評価する。										
テキスト 等	著者・編集者名	書名						出版社名				
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名						出版社名				
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①気候・内容に合わせた服装・シューズ（体育館：インシューズ）を準備し、アクセサリ類ははさずして受講すること。活動中は、各種目のルールを理解し、仲間と協力し審判を含めた試合の管理運営を行いつつ、目標・課題に沿って積極的に参加すること。気象条件・人数に合わせた活動内容の変更等が生じる場合があることを理解したうえで参加すること。時間外学習としては、各種目のルールの確認、技能・体力の向上に努めた活動など行うこと。（予習復習：週1時間程度） ②各時間ごと課題に対するの振り返りを行い、次の活動に活かすことができるようにする。また、評価基準の1つであるレポート課題は提出期限を厳守すること。（最終回に添削後返却）											

授業計画		学習成果の評価	
1回	授業内容	ガイダンス：運動の準備（ウォーミングアップ・クーリングダウンの方法、グループ分け）	運動の進め方・方法の理解
	学習成果	授業の目的・進め方（活動内容と授業内の運動の進め方）を理解し、実施できる。	
	予習復習の内容	運動の方法・進め方を確認し、今後の活動のために日常生活の活動量を増やす努力をする。	
2回	授業内容	レクリエーション活動（コミュニケーションゲームと運動の準備）	運動に対する心身の準備（レクリエーション活動への取り組み）
	学習成果	レクリエーション活動を通して、スポーツ活動を安全に取り組むための心身の準備を整える。	
	予習復習の内容	レクリエーションスポーツの役割を意義・理解し、今後の活動のための心身の準備を整える時間をつくる。	
3回	授業内容	ニュースポーツ（インディアカ）(1) ルール確認・説明、基本技能の習得、簡易ゲーム	ニュースポーツ（インディアカ）の取り組み
	学習成果	ルールを理解し、基本的な技能を習得し、簡易ゲームを実施できる。	
	予習復習の内容	ニュースポーツ（インディアカ）とは何か理解を深め、ルール・基本技能の確認をし、試合形式での活動をするための準備を整える。	
4回	授業内容	ニュースポーツ（インディアカ）(2) 試合形式での実施	ニュースポーツ（インディアカ）の取り組み
	学習成果	チームの課題を設定し、審判を含めた活動を試合の中で実践・展開できる。	
	予習復習の内容	ルール・基本技能の確認をし、試合形式での活動をするための更なる準備を整える。	
5回	授業内容	ニュースポーツ（インディアカ）(3) 試合形式での実施	ニュースポーツ（インディアカ）の取り組み
	学習成果	グループを変え、新たなチームの課題を設定し、審判を含めた活動を試合の中で実践・展開できる。	
	予習復習の内容	新たなチーム編成の中でよりよいチームワークを形成し戦術等工夫をする。	
6回	授業内容	ニュースポーツ（ソフトバレーボール）(1) ルール確認・説明、基本技能の習得、簡易ゲーム	ソフトバレーボールの取り組み
	学習成果	ルールを理解し、基本的な技能を習得し、簡易ゲームを実施できる。	
	予習復習の内容	ソフトバレーボールのルール・基本技能の確認をし、試合形式での活動をするための準備を整える。	
7回	授業内容	ニュースポーツ（ソフトバレーボール）(1) 試合形式での実施	ソフトバレーボールの取り組み
	学習成果	チームの課題を設定し、審判を含めた活動を試合の中で実践・展開できる。	
	予習復習の内容	ソフトバレーボールの試合の中でよりよいチームワークを形成し戦術等工夫をする。	
8回	授業内容	球技（種目選択）(1) ルール確認・説明、基本技能の習得、簡易ゲーム	選択した球技種目の取り組み
	学習成果	選択した球技種目のルールを理解し、簡易ゲームを実施できる。	
	予習復習の内容	選択した球技活動のルール、基本技能の確認をし、試合形式での活動をするための準備を整える。	
9回	授業内容	球技（種目選択）(2) 試合形式での実施	選択した球技種目の取り組み
	学習成果	グループを変え、新たなチームの課題を設定し、審判を含めた活動を試合の中で実践・展開できる。	
	予習復習の内容	試合の中でよりよいチームワークを形成し戦術等工夫をする。	
10回	授業内容	バドミントン・卓球（1）2つの種目のルール確認・説明、基本技能の習得、簡易ゲーム	バドミントン・卓球の取り組み 「レポート課題」心身の準備自分自身が興味のあるスポーツ種目の歴史・ルール・特徴など調べてレポート提出する。（提出期限厳守）
	学習成果	2種目のルールを理解し、基本的な技能を習得し、それぞれの簡易ゲームを実施できる。	
	予習復習の内容	ルール・基本技能の確認をし、試合形式での活動をするための準備を整える。	
11回	授業内容	バドミントン・卓球（2）基本技能の練習、試合形式での実施	バドミントン・卓球の取り組み
	学習成果	試合の流れを理解し、審判を含めた活動を試合の中で実践・展開できる。	
	予習復習の内容	ルール・基本技能の確認をし、試合形式での活動をするための準備を整える。	
12回	授業内容	バドミントン・卓球（3）試合形式での実施	バドミントン・卓球の取り組み
	学習成果	仲間と協力して、審判を含めた活動を試合の中で実践・展開できる。	
	予習復習の内容	グループ分けの方法について検討し、試合を円滑に進めるための方法を検討する。	
13回	授業内容	バドミントン・卓球（4）試合形式での実施（グループごとに対戦相手を設定）	バドミントン・卓球の取り組み
	学習成果	仲間と協力して試合の運営管理、審判を含めた活動を試合の中で実践・展開できる。	
	予習復習の内容	試合の中でよりよいチームワークを形成し戦術等工夫をする。	
14回	授業内容	バドミントン・卓球（5）試合形式での実施（グループごとに対戦相手を設定）	バドミントン・卓球の取り組み
	学習成果	仲間と協力して試合の運営管理、審判を含めた活動を試合の中で実践・展開できる。	
	予習復習の内容	試合の中でよりよいチームワークを形成し戦術等工夫をする。	
15回	授業内容	バドミントン・卓球（6）試合形式での実施（グループごとに対戦相手を設定）	バドミントン・卓球の取り組み
	学習成果	各個人、チームごとに活動に対する総合的な振り返りをする。	
	予習復習の内容	試合の中でよりよいチームワークを形成し戦術等工夫をする。	

科目名	海外文化研修				担当者	川 辺 博 ・ 中 島 恵						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業 形態	演習	学年	1・2年	開講期	後期集中
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業前後に教室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	海外（渡航先）の文化や歴史について、探求心を持って調査することができる。										
	②	事前に調査・計画した研修内容を現地での行動を通して実践できる。										
	③	日常会話程度の語学力を習得して現地で活用できる。										
	④	海外での研修活動に際し、自己管理と危機管理を意識し行動することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	基礎的な会話スキルを身につけ、研修地で実践できる。（専門的学習成果①②③④に連動）										
	(2)	多文化に対応できる総合的な判断力とコミュニケーション能力を有し、主体的に交流・行動することができる。（専門的学習成果③④に連動）										
	(3)	国際社会での貢献をめざして、自己啓発を続け、グローバルな観点で協働することができる。（専門的学習成果②③に連動）										
授業概要	海外にて3～5日間程度の研修を行い、現地の経済・文化・歴史について学ぶ。また、状況に応じては国際交流活動やボランティア活動にも取り組んでみたい。 授業は集中講義で行い、海外研修をするにあたり、事前学習として現地の調査、旅券申請手続き、語学学習などを行い研修に必要な知識と教養を身につける。研修旅行終了後は報告書を提出する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（％）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	30	研修旅行終了後にレポート提出する。								
		平常点	20	事前学習での取り組み、意欲、理解度により評価する。								
		研修	50	研修旅行期間中の取り組み、意欲により評価する。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習評価①～④で評価を行う。 (2) は専門的学習評価③④で評価を行う。 (3) は専門的学習評価②③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①1・2年共に受講できる。訪問国など、具体的な計画は新年度開講期に伝える。 研修参加費用として約20万円を予定している。 事前学習として訪問国についての情報を収集しておくこと（予習：週2時間程度）。授業後は学習内容を振り返り、課題や疑問点について調べ、理解を深める（復習：週2時間程度）。 ②レポートや課題については、添削し返却する。 ③受講者が20名に満たない場合は中止とする。また、外務省により安全への注意が促された場合にも、実施を見送る。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス 概要説明	授業において受講学生にシラバスの内容を質問をし、理解度を評価する。
	学習成果	授業内容を理解し、研修の意義と目的を理解して説明できる。	
	予習復習の内容	事前学習としてシラバスを読み、内容を理解する。	
2回	授業内容	申請等の手続き、スケジュールの説明	各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。
	学習成果	旅券の申請を各自行える。研修旅行日程を理解して行動計画を立案できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
3回	授業内容	申請等の手続き、専門研修やフィールドワーク	各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。
	学習成果	自主研修と専門研修の内容を理解して説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
4回	授業内容	異国の文化 ①歴史と発展	各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。
	学習成果	渡航先の歴史とその発展を理解して説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
5回	授業内容	異国の文化 ②現代と経済	各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。
	学習成果	渡航先の現状と経済について理解して説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
6回	授業内容	専門研修の概要	各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。
	学習成果	専門研修の内容を理解して選択できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
7回	授業内容	専門研修の準備 語学学習	各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。
	学習成果	研修先の言語を学習して専門研修で活用できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
8回	授業内容	最終案内・確認	各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。
	学習成果	海外に渡航するにあたり自己管理と危機管理を実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
9回	授業内容	研修 第1日目	海外での研修期間中は研修への取り組みを評価する。
	学習成果	計画されている研修内容を実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
10回	授業内容	研修 第2日目	海外での研修期間中は研修への取り組みを評価する。
	学習成果	計画されている研修内容を実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
11回	授業内容	研修 第3日目	海外での研修期間中は研修への取り組みを評価する。
	学習成果	計画されている研修内容を実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
12回	授業内容	研修 第4日目	海外での研修期間中は研修への取り組みを評価する。
	学習成果	計画されている研修内容を実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
13回	授業内容	研修 第5日目	海外での研修期間中は研修への取り組みを評価する。
	学習成果	計画されている研修内容を実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
14回	授業内容	研修報告書の作成	海外での研修内容をまとめレポート課題として提出する。
	学習成果	研修内容を振り返ることができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
15回	授業内容	研修報告	海外での研修内容をまとめレポート課題として提出する。
	学習成果	研修内容について発表できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	

科目名	暮らしと科学				担当者	丸山 穂						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業 形態	講義	学年	2年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に教室で受け付ける。また、Eメールで随時受け付ける。オフィスアワーと研究室の場所、Eメールアドレスは初回授業の時に伝える。											
専門的 学習成果	①	科学的思考方法を説明できる。										
	②	普段の生活に科学が活用されていることを述べることができる。										
	③	科学的な観察眼や論理的思考方法に基づき行動できる。										
	④	「疑似科学」を見分けられるようになる。										
汎用的 学習成果	(1)	これまで学んできた科学の知識を総合的に実生活で活用できる。(専門的学習成果の①～④)										
	(2)	科学・技術の発展について自ら総合的に判断し、主体的に社会生活に活かす事ができる。(専門的学習成果の①～④)										
	(3)	論理的・客観的な思考を意識することで、他者の考え方を尊重し主体的行動をとりながら協働することができる。(専門的学習成果の①～④)										
授業概要	「科学」とは、生きるための基本的知識である。普段のあたりまえの行動も、日常生活で目にしていない事でも、科学の目をもって見れば意外な発見があります。知らずに過ごしているなんてもったいない。ちょっとした気づきでこれまでと違った風景が見えてきます。また、知って得する豆知識、毎日の生活の中でふと疑問に思ったこと、ニュースで話題になった技術や医療等、科学的出来事など、毎回の小レポートをもとに授業を展開します。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	50	最終課題レポートとして講義内容に関連した課題を用意する。話題の選択、文脈・内容・体裁・文字数・構成の工夫から理解度及び取り組みの姿勢を判断し、評価する。								
		小レポート	20	10回以上、小レポートを提出すること。書き方については授業中に説明する。								
		平常点	30	受講の態度、関心、意欲を評価する。								
汎用的 学習成果	(1)～(3) は専門的学習効果①～④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①毎回、主にその週に起きた科学的・技術的話題について、関心を持ったこと、また、日頃の生活で疑問に感じた事や気づいた事を、小レポートとして提出してください(事前準備として週に3時間程度)。それをもとに授業を展開します。参加型の授業展開を行うので、積極的に参加していくこと。授業後には、1時間程度、振り返っての考察を行ってください。 ②小レポートや最終課題レポートは適宜解説を行う。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス（授業の進め方と小レポートについて）	毎回、その日の科学的な話題や小レポートの内容に基づいた対話を行い評価する。 最終課題レポートを課し評価する。
	学習成果	科学的な考え方の概要を説明できる。	
	予習復習の内容	小レポートを作成する。学習内容を振り返り、日常生活に適用する。	
2回	授業内容	日常生活と科学、科学的思考ということ	
	学習成果	科学的な考え方の概要を説明できる。	
	予習復習の内容	小レポートを作成する。学習内容を振り返り、日常生活に適用する。	
3回	授業内容	化学反応について	
	学習成果	化学反応の概要を説明できる。	
	予習復習の内容	小レポートを作成する。学習内容を振り返り、日常生活に適用する。	
4回	授業内容	エネルギーについて	
	学習成果	エネルギーの概要を説明できる。	
	予習復習の内容	小レポートを作成する。学習内容を振り返り、日常生活に適用する。	
5回	授業内容	原子・素粒子・宇宙の起源	
	学習成果	原子・素粒子・宇宙の起源の概要を説明できる。	
	予習復習の内容	小レポートを作成する。学習内容を振り返り、日常生活に適用する。	
6回	授業内容	宇宙と生命	
	学習成果	宇宙と生命について概要を説明できる。	
	予習復習の内容	小レポートを作成する。学習内容を振り返り、日常生活に適用する。	
7回	授業内容	生物の進化ということ	
	学習成果	生物の進化について概要を説明できる。	
	予習復習の内容	小レポートを作成する。学習内容を振り返り、日常生活に適用する。	
8回	授業内容	遺伝子とバイオテクノロジー	
	学習成果	遺伝子とバイオテクノロジーについて概要を説明できる。	
	予習復習の内容	小レポートを作成する。学習内容を振り返り、日常生活に適用する。	
9回	授業内容	生命科学について・基本	
	学習成果	生命科学について概要を説明できる。	
	予習復習の内容	小レポートを作成する。学習内容を振り返り、日常生活に適用する。	
10回	授業内容	生命科学について・応用	
	学習成果	生命科学の応用について概要を説明できる。	
	予習復習の内容	小レポートを作成する。学習内容を振り返り、日常生活に適用する。	
11回	授業内容	日本の醸造食品の話（日本酒醸造を中心として）	
	学習成果	日本の醸造食品について概要を説明できる。	
	予習復習の内容	小レポートを作成する。学習内容を振り返り、日常生活に適用する。	
12回	授業内容	海と環境	
	学習成果	海と環境について概要を説明できる。	
	予習復習の内容	小レポートを作成する。学習内容を振り返り、日常生活に適用する。	
13回	授業内容	環境汚染と汚染物質	
	学習成果	環境汚染、汚染物質について概要を説明できる。	
	予習復習の内容	小レポートを作成する。学習内容を振り返り、日常生活に適用する。	
14回	授業内容	ITの話	
	学習成果	ITの話について概要を説明できる。	
	予習復習の内容	小レポートを作成する。学習内容を振り返り、日常生活に適用する。	
15回	授業内容	最近の話題・まとめ	最終回に、これまでの科学的な話題や小レポートの内容に基づいた対話を行う。
	学習成果	科学的な考え方の概要を説明できる。	
	予習復習の内容	小レポートを作成する。学習内容を振り返り、日常生活に適用する。	

科目名	環境と自然				担当者	高田淑子						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に講師室で受け付ける。メールでの問い合わせに応じる。										
専門的 学習成果	①	現代科学における自然観・宇宙観を理解し、概要を説明できる。										
	②	地球生態系としての自然環境を理解し、社会の在り方について討議できる。										
	③	日常生活の中での科学技術に関する諸問題を考察し、説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	幅広い教養を身につけ、将来にわたり好奇心を持ち続け、身の周りの現象について思考し、探求することができる。(専門的学習成果の①②)										
	(2)	現代社会における科学技術と関連する様々な課題について、主体的に判断し社会生活に活かすことができる。(専門的学習成果の②③))										
授業概要	私たちの住む地球は、宇宙の中の太陽系の一つの惑星であり、人類の生存に適した環境を保持している。この地球上に暮らす私たち人類が、どこからきたのか、何者か、そしてどこへ向かうのかを、宇宙という大きな枠組みの中で科学的に考える。また、太陽系の中の地球について学習し、地球の形成から進化の過程を学び、地球環境の変遷について考える。特に、気候変動、地震・津波などの自然現象を科学的見地から理解し、オゾンホールの拡大や二酸化炭素の増加等、人類が地球に与える影響の意味を探り、我々の暮らしに還元する。さらに、我々人類が、地球の進化の過程における生物進化の帰結であることを理解した上で、地球生態系システムの視点から、地球環境との関わりを考察し、生物多様性や生態系保全の重要性を理解する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	60	講義の展開に応じて、内容の理解を問うレポートで評価を行う。								
		平常点	20	授業の態度、関心、意欲を評価する。								
		筆記試験	20	第15回の授業後半に筆記試験形式で行い、講義全体の内容理解について評価を行う。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①及び②で評価を行う。 (2) は専門的学習成果②及び③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①事前学習として、講義内容のテーマについて、理解に努めること。特に、関心をもった点や疑問点を整理しておくこと(予習:週2時間程度)。事後学習としては、紹介する文献等を参考にしながら、課題のレポートを記述すること(復習:週2時間程度)。テキスト参考書は授業の中で紹介する。 ②フィードバックとして、レポート回収後に、内容と評価について解説を行う。										

授業計画			学習成果の評価	
1回	授業内容	ガイダンス：講義の内容とねらい	各回におけるレポート（例えば、宇宙の進化に関する問いについて）	
	学習成果	本授業の内容を理解し、説明できる。		
	予習復習の内容	シラバスを事前に読み、その内容を理解する。ガイダンスの内容を踏まえて学修計画を立てる。		
2回	授業内容	宇宙の進化Ⅰ 太陽系の構造		
	学習成果	太陽系の構造について、学修した内容を説明できる。		
	予習復習の内容	太陽系の構造について調べ、整理しておく。		
3回	授業内容	宇宙の進化Ⅱ 太陽系の形成と進化		
	学習成果	太陽系の形成と進化について、学修した内容を説明できる。		
	予習復習の内容	太陽系について調べ、整理しておく。		
4回	授業内容	宇宙の進化Ⅲ 銀河系と星の誕生と死		
	学習成果	銀河系における星の誕生と死の過程を説明できる。		
	予習復習の内容	銀河系・恒星について調べ、整理しておく。		
5回	授業内容	宇宙の進化Ⅳ 宇宙の始まりから銀河形成まで		
	学習成果	膨張宇宙において銀河が形成される過程を説明できる。		
	予習復習の内容	宇宙に関してを調べ、整理しておく。		
6回	授業内容	地球環境Ⅰ 地球の構造	各回におけるレポート（例えば、気候変動について）	
	学習成果	地球の構造について、学修した内容を説明できる。		
	予習復習の内容	地球の構造について調べ、整理しておく。		
7回	授業内容	地球環境Ⅱ 地球の形成と進化		
	学習成果	地球の形成と進化について、学修した内容を説明できる。		
	予習復習の内容	地球の進化について調べ、整理しておく。		
8回	授業内容	地球環境Ⅲ 地球大気と海洋		
	学習成果	現在の地球の大気と海洋について、学修した内容を説明できる。		
	予習復習の内容	地球の大気と海洋について調べ、整理しておく。		
9回	授業内容	地球環境Ⅳ 地球大気の進化（酸素の変遷と二酸化炭素量の増加）		
	学習成果	地球大気の組成の変遷について、学修した内容を説明できる。		
	予習復習の内容	大気の組成の変遷について調べ、整理しておく。		
10回	授業内容	地球環境Ⅴ スノーボールアースと気候変動		
	学習成果	地球における気候変動について、学修した内容を説明できる。		
	予習復習の内容	地球における気候変動について調べ、整理しておく。		
11回	授業内容	地球環境Ⅵ 自然災害の科学		
	学習成果	地球上でおきる災害を、科学的な観点から説明できる。		
	予習復習の内容	地震・津波・台風等の気象現象など自然災害について、整理しておく。		
12回	授業内容	地球生態系Ⅰ 生命の起源と進化	各回におけるレポート（例えば、地球の生態系について）	
	学習成果	原始地球における生命の起源について、学修した内容を説明できる。		
	予習復習の内容	原始地球における生命の起源について、整理しておく。		
13回	授業内容	地球生態系Ⅱ 生命の進化と生物多様性		
	学習成果	「ヒト」までの人類の進化と、生物多様性について説明できる。		
	予習復習の内容	生命の進化と生物多様性に関して調べ、整理しておく。		
14回	授業内容	科学技術と私たち		
	学習成果	科学技術と私たちについて考察し、自己のあり方に反映できる。		
	予習復習の内容	講義全体について整理、確認を行い筆記試験に備えること。		
15回	授業内容	筆記試験		筆記試験（全15回分の内容を問う）
	学習成果	環境と自然について理解し、自己の地球観・SDGsの考え方を養う。		
	予習復習の内容	講義全体について整理、確認を行い筆記試験に備えること。		